



文化庁委託事業
「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」

グッドプラクティス集

2023年2月28日



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

もくじ

1. はじめに	・・・P.2
2. 当グッドプラクティス集の見方	・・・P.3
3. 「言語活動別」を中心にしたレベル別、コース別、手法別の実践事例	・・・P.4
• 話す(やり取り) ・・・P.5	• 話す(発表) ・・・P.7
• 聞く ・・・P.8	• 読む ・・・P.9
• 書く ・・・P.10	
4. 日本語教育機関別実践事例	・・・P.11
日本語教育機関別の実践事例の見方	・・・P.12
• I.C.NAGOYA・・・P.14～19	• 新富国際語学院・・・P.20～25
• 神村学園専修学校・・・P.26～30	• Grandeur Global Academy 沼津校・・・P.31～35
• 東京語学学校・・・P.36～39	• 南大阪国際語学学院・・・P.40～43
• 国際語学学院・・・P.44～46	• さくら東京日本語学校・・・P.47～49
• 東京さくら学院・・・P.50～52	• 東京福祉保育専門学校・・・P.53～55
• HAYAMA International Language School・・・P.56～58	
5. 索引	・・・P.59

1. はじめに

「グッドプラクティス」とは

以下のような視点で工夫がなされている日本語教育機関の具体的な取組です。

- ・ コースの目標設定とプログラム（カリキュラム・教員配置・評価等）の適切性
- ・ 教育内容・方法の適切性
- ・ 目標の達成度・成果の分析の適切性

2. 当グッドプラクティス集の見方

2種類のさがしかた

当グッドプラクティス集は、当事業で収集・分析したグッドプラクティスを、「言語活動別」を中心としたレベル別、コース別、手法別の実践事例を掲載しています。

（巻末に、「レベル別」「対象別」「手法別」「言語活動別」の索引を掲載しています）



P.4～P10

日本語教育機関別にグッドプラクティスをまとめています。当該グッドプラクティスに至るまでの各日本語教育機関の考えや、取組の全体像、before→after等を掲載しています。また、各機関の2ページ目以降は、具体的なグッドプラクティスの取組ポイントや有識者のコメントなどをまとめています。



P.11～P.58

「言語活動別」を中心にした レベル別、コース別、手法別の実践事例

話す（やり取り）

特に注目される実践事例

A1 進学 オンデマンド

- ・ オンデマンドの事前学習を導入し、オンライン授業では会話練習等の運用練習に力を入れられたことで、口頭練習の機会が得られ、コミュニケーション力が向上した。

▶ 有識者からのコメント



ICT活用方法をきちんと理解しており、計画通り狙った成果を出している点が良い。

I.C.NAGOYA

■ P.16参照

A1 進学 ハイブリッド

- ・ Can-doに応じた教材動画（オリジナル制作）の事前学習により、オンラインで学習者同士の練習ができた。Zoom投票機能で学習者の相互評価を実施した。

▶ 有識者からのコメント



動画教材も含め、授業設計がしっかりできていて良い。

Grandeur Global
Academy 沼津校

■ P.33参照

A1 一般 ハイフレックス

- ・ ハイブリッド授業において、カメラの位置や、教室学習者とオンライン個人のペア学習する等して、オンラインで参加している個人参加者が取り残されないよう工夫にした。

▶ 有識者からのコメント



教室と個人をオンラインで繋ぐと、どうしても間に教員が介在してしまう中で、学習者と学習者の会話等の工夫があって良い。

神村学園専修学校

■ P.28参照

話す（やり取り）

■レベル別、コース別、手法別の実践事例（一部）

B2	進学	オンライン	国内の対面日本語教育ではなかなか実施が難しい、母語サポートを付けて行うことで、効果的に4技能のスキルおよび総合的なコミュニケーション力を伸ばした。	東京語学学校 (P.38)
A1	進学	オンライン	Zoomのブレイクアウトルームの機能を活用してやり取りの練習。同国の学習者同士、慣れたら異国間のペアを作り、生活習慣や環境の違いを理解。	新富国際語学院 (P.22)
B1・B2	就職	オンライン	就労に関する面接での自己紹介等、具体的な内容を学習。学習者同士で感想や質疑応答を行う。Can-doをベースにしたオリジナル評価シートで教員による評価を実施。	国際語学学院 (P.46)
A1	一般	オンライン	親子が参加するオンライン授業を実施。授業以外のSNSでのやり取りも活用した。	南大阪国際語学学校 (P.42)
B1	進学・就職	ハイブリッド	現地にもフォロー体制を敷きながら実施することで、現地参加者を置き去りにせず、ハイブリッド形式での効果的な授業を実施。	さくら東京日本語学校 (P.49)
B2	進学	オンライン	やり取りについて、最初と最後の授業動画を比較することで、評価をおこなった。	HAYAMA International Language School (P.58)

▶ 有識者からのコメント



- オンラインにおいても、工夫をして生徒同士のコミュニケーションを活性化している取組が良い。
- 現地・母語サポーターについては、ハイブリッドにおいて置き去りにしないためであったり、テクニカルサポートという観点で意味がある。母語サポートの確保のしやすさはオンラインのメリットでもある。
- 自己評価を導入したり、教員評価をフィードバックするのは良い。今後、学習者が、学ぶ場所が変わった後も学習を続けるにあたり、現在の自分の状況（能力）を自分自身で把握できている必要があり、自分の評価が正しくわかることで、自立した学習者になれる。

話す（発表）

特に注目される実践事例

A1	進学・就職	オンライン
- テーマを設定し、スピーチを実施。授業内で練習の機会を設け、フィードバックを受けた後、最終日に発表。 - 最終日発表のスピーチについて、3名の教員で評価を実施。		

▶ 有識者からのコメント



一連の取組として、計画的に実施されている。複数名の教員による評価ができたという点が良い。

I.C.NAGOYA

 P.17参照

■ レベル別、コース別、手法別の実践事例（一部）

A1	一般	オンライン	授業においてスピーチ時間の確保し、当日に復習・スピーチと、簡単な自己評価アンケートを実施	南大阪国際語学学校 (P.43)
A1	進学	ハイブリッド	短作文を作成しクラス内で発表、授業内で教員からコメントした	Grandeur Global Academy 沼津校 (P.34)

▶ 有識者からのコメント



- オンライン、ICTを活かした取組として、オンラインであると録画が簡単にできることを活かして、学習者にフィードバックをしたり、個人に合わせて授業以外においても使えるとよかった。
- 例えば、録画したものを他の先生にも評価してもらう、始めと終わりで発表を録画し動画を比較し、学習者にフィードバックする等が考えられる。

特に注目される実践事例

A1	進学	オンデマンド
Can-doに応じた場面会話について、オリジナル動画教材を制作。字幕「有」と「無」を制作し、イラストを多様していることで、イラストの動きで聞くことに集中させることができた。		

▶ 有識者からのコメント



事前学習を取入れていること、学習者の聞き取りの学習進度に合わせ、学習方法に選択肢がある点が、とても良い。

Grandeur Global
Academy 沼津校

👉 P.35参照

■ レベル別、コース別、手法別の実践事例（一部）

A1・A2	進学・就職	オンライン・オンデマンド	ゲストスピーカーに参加してもらい（ボランティア）聞き取り、ディスカッションを実施。	東京福祉保育専門学校（P.55）
B1～C	進学・一般	ハイブリッド	毎回授業で、日本の最新ニュース動画を紹介し、生の日本語を聞き取る。	神村学園専修学校（P.29）
A1	一般	オンデマンド	予習・復習用に、日本の文化を紹介したりする魅力的なコンテンツ動画を作成し、聞き取りを実施	東京さくら学院（P.52）

▶ 有識者からのコメント



- 教室で実施する授業ではゲストスピーカーを呼ぶのがなかなか難しい。オンラインだと教室に来てもらう必要がないので、ボランティア等、様々な人に協力してもらいやすく、その点を活かしてよい。
- 新聞やニュースを活かした授業は対面でも実施しているので、学習者が興味のあるニュースを授業中その場で検索する等、ICTを活かしインタラクティブなやり取りがあると、より良いだろう。

特に注目される実践事例

A1	進学	オンライン
教科書のモデル会話をペアワークで練習し、教員が指名して学習者に読ませた。それぞれが読んだものを、学習者たちが相互評価をするピアラーニングも取り入れた。		

▶ 有識者からのコメント



対面授業に近いクオリティを、オンラインにおいても不足なく提供するために努力されている点について、評価できる。

新富国際語学院

■ P.23参照

■ レベル別、コース別、手法別の実践事例（一部）

A1	進学	オンデマンド	・ オンデマンドの事前学習により、授業においては音読、シャドーイングに注力できた	I.C.NAGOYA (P.18)
B1～C	進学・一般	ハイブリッド	・ 新聞のコラムを使用し「用意スタート」の合図で一斉に読む速さを競うことを取り入れた	神村学園専修学校 (P.30)
A2	就職	オンライン	・ 介護施設で目にする掲示や介護記録等の生の日本語に触れる機会を増やした	新富国際語学院 (P.24)

▶ 有識者からのコメント



- 「読む」については、各学校、対面と変わらない授業を行っているという印象であった。ただ、オンライン授業で対面授業と変わらないクオリティを保つことが難しい場面があることから、その努力は評価したい。
- 読むについては、オンデマンド・ICTを活かした取組の可能性がまだあるだろう。

特に注目される実践事例

A1	進学	オンデマンド
学習アプリを活用し、ひらがな・カタカナの手書きのタスクを作成。オンライン授業では正しく書けているかを確認するのが難しいが、アプリによる自学で正しく書く練習ができた。		

▶ 有識者からのコメント



**オンデマンド（ICT）を活用している
好事例である。**

I.C.NAGOYA

■ P.19参照

■ レベル別、コース別、手法別の実践事例（一部）

A2	就職	オンライン	Zoomのチャット機能を使用し、ディクテーションの要領で教員の発した語を入力してもらった	新富国際語学院 (P.25)
A1	進学	オンライン	タブレット端末・タブレットペン、SNS等を活用して、学習者の成果物に個別フィードバック	東京語学学校 (P.39)

▶ 有識者からのコメント



- Googleホワイトボード等の活用や、タブレットの活用した個別フィードバック等、ICTを活用されていて良かった。
- チャット機能、SNS等を活用して、日本語の文字入力に慣れることができるというのも、オンライン授業としての良い効果であろう。
- Googleのスプレッドシート等、まだまだ書くについては活用できるアプリケーションがあるので、是非今後も活用して欲しい。

日本語教育機関別 実践事例

日本語教育機関別の実践事例の見方

日本語教育機関の概要→当該日本語教育機関の取組→当該日本語教育機関のグッドプラクティスを、順に追って見たい場合

各校1枚目

- 日本語教育機関自身の考え
- 実証事業のきっかけ、抱えていた課題 (before)
- 具体的な取組・工夫 (action)
- 実証事業を通じて得た成果 (after)
- 今後の展望

2枚目

- 当日本語教育機関のグッドプラクティスとして注目の「手法」「レベル」「対象」「言語活動」
- 当日本語教育機関の取組の実施概要・ポイント

3枚目以降

- 当日本語教育機関のグッドプラクティスとされる取組の実施内容の詳細
- 有識者からのコメント

I.C. NAGOYA

各校1枚目

実施概要

- ・ 1995年創設
- ・ 名古屋市中区
- ・ 事業期間 2022年7月22日～2023年3月31日

実施事業のきっかけ、抱えていた課題 (before)

- ・ コロナ禍で学習者のアットホーム感が薄れ、授業で学んだ知識が定着しにくく、中にはひらがなやカタカナから読み取れない単語が増え、学習意欲が低下していた。
- ・ コロナ禍でICT教育が一気に活性化し、講師のICTリテラシーの向上により、授業の質が向上した。

具体的な取組・工夫 (action)

- ・ AI活用アプリ「Monoxer」を活用し、文字（ひらがな・カタカナ）の読み取りを支援した。
- ・ オンデマンド教材（eTV）を活用した反転授業を取り入れ、自主学習の習慣をつけることに、授業では口頭練習を強化し、活用能力の向上を図った。
- ・ 学習レベルに合わせてチームでのスピーチを授業に取り入れ、発表の機会を増やした。発表活動を行った後、発表者のスピーチをクラス全員で実施し、講師も発表を支援した。オンラインでも発表活動を行うことで、発表意欲も高まった。
- ・ 教員研修を実施し、ICTツールの紹介と授業内での活用方法やアクティブラーニングについて学ぶ機会を設けた。

実証事業を通じて得た成果 (after)

- ・ オンデマンド教材を取り入れることで、学習者が人前で学習する習慣が身についた。個々のレベルにあった学習ができるようになった。
- ・ ICT教育やアクティブラーニングについて、オンライン教員研修を行ったことにより、「学習者主体の学び」を考えた授業が実現した。

今後の展望

- ・ 当校実施の420時間日本語教育実証事業（実践、実証）でのICT教育プログラムの検討
- ・ 日本語教育に対する定着率は教員研修の実施による学びの促進
- ・ オンラインを軸とした外国人への職業別日本語教育プログラムの提供

I.C. NAGOYA

取組の概要

取組のポイント

- ・ 活用する教材・アプリ・LMSの選定や、事業開始時に教員研修を実施しオンライン教育のスキルを底上げするなど、具体的な計画を策定し事業を実施した。
- ・ 「話す（やりとり）」では、オンデマンド教材を活用した反転授業を取り入れ、授業では口頭練習を強化することで、コミュニケーション力が向上した。
- ・ 「書く」では学習アプリを活用するなど、効果的にICTを授業につなげるとともに、評価を随時フィードバックしていただくことで、定着を促した。

実施事項

項目	内容
手法	・ 学習者は自宅からオンライン授業に参加。 ・ オンデマンド教材を駆使して実施し、「eTV」は、特に「聞く・読む」に活用。 ・ AI活用アプリ「Monoxer」は「読む・書く」に活用。
事業全体	・ グループ授業3クラス（A・B・C）、プライベートレッスン ・ AI活用アプリにて学習コンテンツ作成 ・ 教員研修 等

「Aクラス」の例

項目	内容
人数	6名（ネパール・モンゴル・タイ）
利用教材	・ eTV N5（アスク出版） ・ TRY! N5 ebook（アスク出版） ・ 自校教材「文字ppt」「語彙ppt」 ・ AI活用アプリ「Monoxer」
教師	4名（授業担当講師3名、運営サポート1名）
当クラスの学習時間	1日2コマ（120分）×週5回×6週間 合計60時間

I.C. NAGOYA

取組の概要（話す（発表））

取組のポイント

- ・ 受講生がテーマを設定し、スピーチを実施。オンデマンドを活用した反転授業をすることで、オンライン授業で実際に発表する時間、講師・受講生からフィードバックする時間を多く取ることができた。
- ・ 最終日の発表のスピーチについて、3名の講師で評価を実施。

項目	内容
目標	・ ある程度まとまった内容で自己紹介ができる。
教材内容	・ カリキュラムの後半になり、ある程度話せるレベルになった後、自己紹介をテーマにしたスピーチを行う。
学習方法	・ 授業全体の活用として、発表文法を使用したスピーチ指導を作成し、発表する。授業内でフィードバックを活用して少人数で練習する。 ・ 最終日に発表を行う。

有識者からのコメント

- ・ 一連の取組として、計画的に実施されている。複数の講師による評価ができたという点が良い。
- ・ 録画が簡単にできることを活かし、学習者にフィードバックをしたり、個人に合わせて授業以外においても使えたり、より良かった。

日本語教育機関一覧

NO	学校別	掲 載 ペ ー ジ	レベル					対象			手法				言語活動							
			A1	A2	B1	B2	C	進 学	就 職	一 般	オン ライ ン	ハイ ブリ ッド	オン デマ ンド	ハイ フレ ックス	話 す （やり 取り）	話 す （発表）	聞 く	読 む	書 く	日本 事情・日本 理解	そ の 他	
1	I.C.NAGOYA (P.14～19)	16	○					○					○		○							
		17	○						○			○				○						
		18	○					○					○					○				
		19	○					○					○						○			
2	新富国際語学院 (P.20～25)	22	○					○			○				○							
		23	○					○			○							○				
		24		○					○		○							○				
		25		○					○		○								○			
3	神村学園専修学校 (P.26～30)	28	○							○				○	○							
		29			○	○	○	○		○		○					○					
		30			○	○	○	○		○		○						○				
4	Grandeur Global Academy 沼津校 (P.31～35)	33	○					○				○			○							
		34	○					○				○				○						
		35	○					○					○				○					
5	東京語学学校 (P.36～39)	38				○		○			○				○							
		39	○					○			○								○			
6	南大阪国際語学学院 (P.40～43)	42	○							○	○				○							
		43	○							○	○					○						
7	国際語学学院 (P.44～46)	46			○	○			○		○				○							
8	さくら東京日本語学校 (P.47～49)	49			○			○	○			○			○							
9	東京さくら学院 (P.50～52)	52	○							○			○				○					
10	東京福祉保育専門学校 (P.53～55)	55	○	○				○	○		○		○				○					
11	HAYAMA International Language School (P.56～58)	58				○		○			○				○							

外形情報

- 1986年創設
- 愛知県名古屋市
- 事業期間 2022年7月22日～2023年1月31日

オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス			
◎		◎				
A1	A2	B1	B2	C	進学	就職
◎	○				◎	◎
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他
◎	◎	○	◎	◎	○	○

▶ 実証事業のきっかけ、抱えていた課題 (before)

- ・ コロナ禍で学習者の学びがストップしており、母国で学んだ学習内容が定着しておらず、中にはひらがなやカタカナから教えないといけない学習者もいた。
- ・ コロナ禍でICT教育が一気に活性化し、教員のICTリテラシーの格差により、教育の質に格差が生まれ始めていた。

▶ 実証事業を通じて得た成果 (after)

- ・ オンデマンド教材を取り入れることで、学習者が入国前に学習する習慣をつけたり、個々のレベルにあった学習をすることができた。
- ・ ICT教育やアクティブラーニングについて、オンライン教員研修を行ったことにより、「学習者主体の学び」を考えるきっかけとなった。

▶ 具体的な取組・工夫 (action)

- ・ AI記憶アプリMonoxerを活用し、文字（ひらがな・カタカナ）の読み書きの定着を図った。
- ・ オンデマンド教材（eTRY!）を活用した反転授業を取り入れ、自主学習の習慣をつけるとともに、授業では口頭練習を強化し、運用力の向上を図った。
- ・ 学習レベルに合わせたテーマでのスピーチを授業に組み入れ、まとめた内容の文章を書き、話す活動を行った。成果発表のスピーチはクラス合同で実施し、教員も複数名参加した。オンラインでも緊張感を持って発表し、達成感も感じられたようである。
- ・ 教員研修を実施し、ICTツールの紹介と授業内での活用方法やアクティブラーニングについて学ぶ機会を設けた。

▶ 今後の展望

- ・ 当校実施の420時間日本語教師養成講座（実践、実習）でのICT教育プログラムの検討
- ・ 日本語教師に対する定期的な教員研修の実施による学びの場の提供
- ・ オンラインを軸とした外国人への職業別教育プログラムの提供

取組の概要

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎	○				◎	◎	
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
◎	◎	○	◎	◎	○	○	

※◎は当事例で特に注目される実践事例（次ページ参照）

取組のポイント

- 活用する教材・アプリ・LMSの選定や、事業開始時に教員研修を実施しオンライン教育のスキルを底上げするなど、具体的な計画を策定し事業を実施した。
- 「話す（やり取り）」では、オンデマンド教材を活用した反転授業を取り入れ、授業では口頭練習を強化することで、コミュニケーション力が向上した。
- 「書く」では学習アプリを活用するなど、効果的にICTを授業につなげるとともに、評価を随時フィードバックしていくことで、定着を高めた。

実施事項

項目	内容								
手法	<table><tr><td>オンライン</td><td>ハイブリッド</td><td>オンデマンド</td><td>ハイフレックス</td></tr><tr><td>◎</td><td></td><td>◎</td><td></td></tr></table> ・ 学習者は自宅からオンライン授業に参加。 ・ オンデマンド教材を併用して実施し、 「eTRY!」は、特に「聞く・読む」に活用、 「AI記憶アプリ」は「読む・書く」に活用。	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	◎		◎	
オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス						
◎		◎							
事業全体	・ グループ授業3クラス（A・B・C）、プライベートレッスン ・ AI記憶アプリにて学習コンテンツ作成 ・ 教員研修 等								

「Aクラス」の例

項目	内容
人数	6名（ネパール・モンゴル・タイ）   
利用教材	- eTRY! N5（アスク出版） - TRY! N5 ebook（アスク出版） - 自校教材「文字PPT」「語彙PPT」 - AI記憶アプリ「Monoxer」
教員	4名（授業担当講師3名、運営サポート1名）
当クラスの学習時間	1日2コマ（120分）×週5回×6週間 合計60時間

取組の概要（話す（やり取り））

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎					◎		
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
◎							

取組のポイント

- ・ オンデマンド教材による事前学習を取り入れ、オンライン授業内では運用練習に強化することで、コミュニケーション力が向上することを確認。

項目	内容
 目標	・ 身の回りの簡単なことについて、やり取りができる。
 教育内容	・ N5レベルの文法確認 ・ 会話練習 ・ リピート ・ シャドーイング
 学習方法	・ オンデマンド教材で事前学習を行う。 ・ オンライン授業内では運用練習を主に実施する。

項目	内容
 評価方法	・ 語彙・文法を中心に、学校独自のテストで確認
 学習効果	・ オンデマンド教材での事前学習→授業で運用練習、の流れにより、コミュニケーション力が向上した。 ・ 渡日前にライブのオンライン授業を受け、口頭練習の機会が得られたことにより、コミュニケーション力が向上した。

▶ 有識者からのコメント



- ・ オンデマンド（ICT）を活用している好事例である。
- ・ 能力が上がったことを評価を通じて確認するところまで完結できているのもよい。

取組の概要（話す（発表））

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎						◎	
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
	◎						

取組のポイント

- 自己紹介のスピーチを実施。オンデマンドを活用した反転授業をすることで、オンライン授業で実際に発表する時間、教員・受講生からフィードバックする時間を多く設けることができた。
- 最終日の発表のスピーチについて、3名の教員で評価を実施。

項目	内容
 目標	ある程度のまとまった内容で自己紹介ができる。
 教育内容	カリキュラムの後半になり、ある程度話せる内容が増えた後、自己紹介をテーマにしたスピーチを行う。
 学習方法	- 授業全体の応用として、既習文法を使用したスピーチ原稿を作成し、発表する。 - 授業内で練習する。 - 最終日に発表を行う。

項目	内容
 評価方法	- 自己紹介スピーチ原稿の添削。 - スピーチの評価は複数の教員が実施。
 学習効果	- 授業内で発表をし、フィードバックを得ることで、自身の発表内容を更に改善しようという意識が持てた。 - よく準備し、最後は自己紹介ができるようになった。

▶ 有識者からのコメント



- 一連の取組として、計画的に実施されている。複数名の教員による評価ができたという点が良い。
- 録画が簡単にできることを活かして、学習者にフィードバックをしたり、個人に合わせて授業以外においても使えたと、より良かった。

12がつ23にちにスピーチをします。

- 1) なまえは。くには。たんじょう日は。
がくせいですか。かいしゃいんですか。
かぞくは なんにんですか。
- 2) うちはどこですか。どんなまち ですか。
- 3) やすみのひ、どこへ いきますか。
なにで いきますか。なにを しますか。
- 4) いま なにが いちばん ほしいですか。
- 5) なにが すきですか。



（スピーチ原稿作成のための質問）

取組の概要（読む）

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎					◎		

話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他
			◎			

取組のポイント

- ・ オンデマンド教材を活用し、ひらがな・カタカナ・漢字の読みを定着させた。
- ・ 「学習アプリ」は、配信の管理や学習進捗状況を個々に確認でき、目と耳からの学習となる。アプリを通じて教員からのフィードバックが届くと、学習者のモチベーションに繋がりと、成果があがった。

項目	内容
 目標	・ ひらがな、カタカナ、基本的な漢字が読める。 ・ 短い会話文が読み取れる。
 教育内容	・ ひらがな、カタカナ、基本的な漢字の習得 ・ 読み書き練習 ・ シャドーイング
 学習方法	・ ひらがな、カタカナは学習アプリで自主学習 ・ 漢字は独自教材で事前学習。 ・ 授業では見本文の音読。

項目	内容
 評価方法	・ 学習アプリでの進捗度・定着度の確認 ・ 週1度の学習アプリでの小テストの実施
 学習効果	・ 文字の読み書きは、作成した教材（PPT）と学習アプリを活用し、ひらがな、カタカナ、漢字が共に読めるようになった。

▶ 有識者からのコメント



- ・ オンデマンド（ICT）を活用している好事例である。
- ・ オンデマンドの事前学習により、オンライン授業においては音読やシャドーイングに注力できる。うまく使い分けられている。



（アプリ画面）

取組の概要（書く）

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎					◎		
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
				◎			

取組のポイント

- ・ オンデマンド教材として「学習アプリ」を活用し、ひらがな・カタカナの手書きのタスクを作成。
- ・ オンライン授業では正しく書けているか確認が難しいが、アプリにより正しく書く練習ができた。

項目	内容
 目標	・ ひらがな・カタカナが書ける。 ・ 自己紹介程度の簡単な作文が書ける。
 教育内容	・ ひらがな・カタカナ・基本的な漢字の習得 ・ 読み書き練習 ・ ディクテーション
 学習方法	・ ひらがな・カタカナ・漢字は、独自教材とアプリで実施。 ・ 授業後半に、スピーチ原稿を書く。

項目	内容
 評価方法	・ 学習アプリでの進捗度・定着度の確認 ・ 週1度の学習アプリでの小テストの実施
 学習効果	・ 学習スケジュールにあわせアプリの課題を配信・管理したため、語彙の定着が図れ、既習語彙をつかった文の作成ができた。

▶ 有識者からのコメント



- ・ オンデマンド（ICT）を活用している好事例である。
- ・ 手書きのほか、「書く」については、Googleのスプレッドシートやホワイトボード等、活用できるアプリケーションが多数あるので、是非今後も活用して欲しい。



（アプリ画面）

新富国際語学院

A1	A2	B1	B2	C	 三菱UFJリサーチ&コンサルティング	
◎	◎					
オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	進学	就職	一般
◎				◎	◎	
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他
◎		○	◎	◎		

外形情報

- 2016年創設（2019.8.29 現設置者）
- 千葉県千葉市
- 事業期間 2022年8月16日～2023年1月31日（当事業契約期間）

▶ 実証事業のきっかけ、抱えていた課題（before）

- ・ 入学予定者（2021年10月生）のオンライン授業を通じて、入学前の日本語教育、特に（ひらがな、カタカナ）の読み書き、基礎的漢字や基本的会話について事前のオンライン授業の必要性を痛感していた。
- ・ 日本語教師の「オンライン授業における教授法の向上」、そして「PCやICTの操作技術」及び「コンテンツ作成技術」の習熟を図りたいと考えていた。

▶ 実証事業を通じて得た成果（after）

- ・ 教員の「オンライン日本語教育に関する教授法」及び「コンテンツ作成技法の向上」並びに「教師モチベーションアップ」が図られた。
- ・ 授業時の会話やアチーブメントテスト結果等から受講者の技能向上「読む、聞く、話す（やり取り）、書く」が顕著に表れている。

▶ 今後の展望

- ・ 2023年4月生の「在留資格認定証明書（COE）」を受領以降、「入学前のオンライン授業（オンデマンド）」を実施する予定。
- ・ 2023年3月以降、スリランカ（WGI）の「特定技能試験合格者」に対する「就労者向け日本語コース」を行う予定。
- ・ 「ウェブアプリゲーム」をホームページにリンクさせて、誰でもアクセスして自主的に日本語学習ができる環境整備を図る予定。

▶ 具体的な取り組み・工夫（action）

- ・ プレゼンテーション作成用ソフト（パワーポイント）の操作技法が向上し、音声情報との融合や音声のセグメント化を行った。
- ・ Zoomを活用した授業や会議が円滑に行われるようになった。ブレイクアウトルームの活用により、「異国間（学習者）」や「教員と学習者間」のコミュニケーション活性化を図った。
- ・ 「教室参加方式」と「スマートフォン参加方式」の混在したオンライン授業でもコーチング活用により、効率的な授業ができるようにした。
- ・ ピアラーニングを採り入れて、学習者同士が互いの力を発揮し協力して学ぶ学習方法を導入した。
- ・ 学校独自アンケート作成時に「google form」を活用し回答の自動集計を行った。

取組の概要

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎	◎				◎	◎	
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
◎		○	◎	◎			

※◎は当事例で特に注目される実践事例（次ページ参照）

取組のポイント

- ・ 校長、教務主幹及び専任講師が適時、担当講師の授業のモニターを行うとともに、教員相互間で他教員のオンライン授業を見学して、相互に意見交換を行いオンライン教育技法の向上並びにコンテンツ利用法等の改善を図った。
- ・ 「話す（やり取り）」では、Zoomのブレイクアウトルームを活用して練習。初めは同国の学習者同士、慣れたら異国間のペアを作り、生活習慣や環境の違いを理解することができた。
- ・ 「読む」では、Zoomのブレイクアウトルームを活用して練習。練習をした後、指名された学習者が読んだものに対して、学習者たちが相互評価をするピアラーニングを取り入れた。
- ・ 「書く」では、Zoomのチャット機能を使用し、ディクテーションの要領で教員の発した語を入力して送信してもらうなどして、手書きに代わるアウトプットの手段を確保するよう努めた。

実施事項

項目	内容								
手法	<table><tr><td>オンライン</td><td>ハイブリッド</td><td>オンデマンド</td><td>ハイフレックス</td></tr><tr><td>◎</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ・ 学習者の自宅や職場等での受講と教室等に集合しての受講。 ・ 「TRY! START」「eTRY!」は、文字指導に活用。 ・ 「eTRY!」は聴解能力向上に活用。	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	◎			
オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス						
◎									
事業全体	・ 2コース（フリー・就労者向け）各2クラス（前段・後段）								

「フリーコース」の例



項目	内容
人数	32名（ミャンマー・スリランカ・ベトナム・中国等）
利用教材	・ 「TRY! START」「eTRY!」（アスク出版） ・ 「まるごと日本語 日本のことばと文化入門 A1かつどう」（三修社） ・ 補助教材音声ファイル教材ダウンロード-まるごとサイト ・ 担当教師自作のPowerPoint
教員	教員 3 名 + 現地授業サポート
当クラスの学習時間	1 日（90分）×37回 合計55時間30分（前段） 1 日（90分）×27回 合計40時間30分（後段）

取組の概要（話す（やり取り））

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎					◎		
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
◎							

取組のポイント

- ・ Zoomのブレイクアウトルームの機能を活用して、やり取りの練習を行った。
- ・ はじめは同国の学習者同士で行い、慣れたら異国間のペアを作り、生活習慣や環境の違いを理解した。

項目	内容
 目標	・ 日常生活の簡単な会話の中で、相手の質問に答えたりすることができる。
 教育内容	・ 対話の相手を理解するために必要な情報や日常的な表現を使って、コミュニケーションをとる会話練習をする。
 学習方法	・ 授業の目標を達成するために、目標文やモデル文を、初めに練習。次にZoomのブレイクアウトルームの機能を活用して、初めは国内の学習者同士で、慣れたら異国間のペアを作り、モデル文を応用して会話の練習をする。最後に、全員が戻り、応用した会話についてペアで発表する。

項目	内容
 評価方法	・ 記述試験 ・ 会話テスト ・ インタビューテスト
 学習効果	・ 日常生活で使用する簡単なやり取りができるようになった。 ・ 異国間の学習者とペアワークなどを行うことによって、生活習慣や環境の違いを理解する姿勢や興味・関心を高めることができ、活発化した。

▶有識者からのコメント



- ・ オンラインにおいても、学習者同士のコミュニケーションを活性化している取組が良い。

取組の概要（読む）

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎					◎		
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
			◎				

取組のポイント

- Zoomのブレイクアウトルームの機能を活用して、ペアワークで読む練習を実施。練習をした後、指名された学習者が読んだものに対して、学習者たちが相互評価をするピアラーニングを取り入れた。

項目	内容	項目	内容
 目標	簡単で短い文章を音読したり、内容について理解したり、メニューやポスターの情報から必要なものを取り出すことができる。	 評価方法	教科書のモデル会話をペアワークで練習後に教員が指名して学習者に読ませ、その際、それぞれが読んだり話したりしたものを学習者たちが相互評価をするピアラーニングも取り入れた。
 教育内容	短くて簡単な情報文や記述文の概要を、視覚的な教材を使用して語彙や表現の意味を確認しながら、概要を把握させる。	 学習効果	- 教科書の中の簡単な日本語の文章に慣れてきて、ひらがなやカタカナの文章や漢字にルビがふってある文章なら読むことができる。 - また、その文章の内容も理解することができる。 - 始めより読む速度が速くなった。
 学習方法	日本の伝統行事の画像などを使い、日本の文化への興味・関心を高めるとともに、食事をする時間やメニューを見せてメッセージの内容読み込み、教員がQ&Aをして学習者の理解を深める。		

▶ 有識者からのコメント



- 対面授業に近いクオリティを、オンラインにおいても不足なく提供するために努力している点が評価できる。

取組の概要（読む）

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
	◎					◎	
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
			◎				

取組のポイント

- 教材付属の音声を用いる際に、スライドに音声を埋め込み、必要な箇所を迅速に再生できるよう工夫した。介護施設で目にする掲示や、介護記録等、介護現場で使われる生の日本語に触れる機会を増やした。

項目	内容
 目標	簡単な表現であれば、介護施設で目にする掲示や介護記録等を読むことができる。
 教育内容	- 前段では日常生活で使われる基本的な語彙を扱う。 - 後段は介護場面で使われる基礎的な語彙を学習し、施設内の掲示や介護記録のうち基本的な部分が読めるように練習する。
 学習方法	- 画像を用い、学習者が生の日本語に触れる機会を増やし、語彙や漢字の理解と定着を促す。 - 教材付属の音声を用いる際には、スライドに音声を埋め込み、必要な箇所を迅速に再生できるよう工夫した。

項目	内容
 評価方法	- コース全体は、ブレースメントテスト及びアチーブメントテストの結果に基づいて評価する。 - 授業は、教科書のモデル会話をペアで読んでもらい、フィードバックを与える。
 学習効果	授業開始時に比べ、介護現場で使われる語彙で読める漢字が増えた。

▶ 有識者からのコメント



- 対面授業に近いクオリティを、オンラインにおいても不足なく提供するために努力している点が評価できる。

取組の概要（書く）

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
	◎					◎	
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
				◎			

取組のポイント

- ・ Zoomのチャット機能を使用し、ディクテーションの要領で、教員の発した語を入力するようにした。
- ・ パソコンやスマートフォンからの日本語入力之机会を増やし、上達を確認できた。

項目	内容
 目標	・ 簡単な表現で、介護記録を書くことができる。
 教育内容	・ 後段では、介護場面で使われる基礎的な語彙を学習し、簡単な介護記録が書けるように練習する。 ・ パソコンやスマートフォンを用いた日本語入力も扱う。
 学習方法	・ 対面授業に比べて手書きの文字を添削することは難しいので、Zoomのチャット機能を使用し、ディクテーションの要領で教員の発した語を入力して送信してもらい、手書きに代わるアウトプットの手段を確保するよう努めた。

項目	内容
 評価方法	・ コース全体については、プレースメントテスト及びアチーブメントテストの結果に基づいて評価を行った。 ・ 授業では、主にチャット機能で文字を入力してもらった際、フィードバックを与えた。
 学習効果	・ パソコンやスマートフォンによる日本語入力が上達した。

▶有識者からのコメント



- ・ チャット機能、SNS等を活用して、日本語の文字入力に慣れることができるというのも、オンライン授業としての良い効果である。

神村学園専修学校

オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス
○	◎	○	◎

A1	A2	B1	B2	C
◎	○	◎	◎	◎

話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く
◎	○	○	◎	◎

外形情報

- 1956年創設 ※日本語学科は2010年開設
- 鹿児島県いちき串木野市
- 事業期間 2022年12月2日～2023年1月31日
(当事業契約期間)

▶ 実証事業のきっかけ、抱えていた課題 (before)

- ・ 当校ではオンライン教育の実績が少なく、この度の実証事業を通してオンライン教育の技術や指導法、教材作成を教員間で共有し、今後オンライン教育に対応できる体制を整えておくことを目的に実証事業に参画した。

▶ 実証事業を通じて得た成果 (after)

- ・ ハイブリッド型授業で教室と現地を繋ぐことにより、学習者同士がお互いに刺激を受け、日本語学習に対するモチベーションが高くなる傾向が見られた。
- ・ 県内在住ウクライナ避難民の方が、来日して半年以上経つにもかかわらず日本語教育の機会を得られず、全くのゼロ初級で表情も硬かったが、回を重ねる毎に会話が増え明るくなった。

▶ 具体的な取組・工夫 (action)

- ・ ハイブリッド型授業では、学習者同士リアルタイムに学び合っている様子が互いに見えるよう、カメラの向きに配慮して授業を行なった。
- ・ 具体的には、
 - ①授業始めや終わりの挨拶の際、教室学習者にカメラを向け、現地にいる学習者と挨拶し、既習フレーズを使い会話をする。
 - ②板書時にはカメラを黒板に向け、現地の学習者にも見えるよう工夫する。
 - ③休み時間中もカメラとマイクをONにし、互いの近況や日本（現地）の様子を語り合える時間を作るなど。
- ・ 中上級コースでは、比較的理解しやすい文章の新聞のコラムを教材にし、「読む」「書く」の苦手意識の軽減を図るとともに、読み書きにかかる時間を計ることで、自分の上達度が実感できるよう工夫した。また教材を通して日本事情に触れ、必要に応じてYouTubeやイメージ画像を取り入れるなどして、日本理解に繋がった。

▶ 今後の展望

- ・ 当事業で得たノウハウを活用し、来日前のオリエンテーションや日本語学習など、来日後の生活がスムーズに進む環境作りを行いたい。
- ・ 在住外国人や世界中で日本語を学んでいる学習者に対し、オンラインスキルを活用して日本語教育や当学園の日本人生徒・学習者との交流活動を行い、多文化共生社会の推進に向けてICTを最大限に活用していきたい。

取組の概要

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎	○	◎	◎	◎	◎		◎
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
◎	○	◎	◎	○	○		

※◎は当事例で特に注目される実践事例（次ページ参照）

取組のポイント

- ・ 来日して間もない留学生と、入国待ちの学習者（数ヶ月後来日予定）をオンラインで繋ぎ、場面ごとに使用される文型や語彙をお互いに発話させることで、来日後の日常会話がスムーズに出来ることを目指した。
- ・ 初学者へのオンラインコースは実施経験がなく、既成のオンライン授業用教材の使用経験もなかったため、当事業を通じて教員のスキルアップを図った。
- ・ 中上級クラスへ進み、進学を目前にした学習者は、志望理由や小論文が書けず苦勞する場面がみられるため、「読む」「書く」を身近に感じられるようオンライン授業でも工夫して実施した。

▶ 実施事項

項目	内容								
手法	<table><tr><td>オンライン</td><td>ハイブリッド</td><td>オンデマンド</td><td>ハイフレックス</td></tr><tr><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td>◎</td></tr></table> - 国内の学習者：教室での対面授業 - 国外の学習者：現地でのオンライン受講	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	○	◎	○	◎
オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス						
○	◎	○	◎						
事業全体	- 国内外の学習者が交流できるようにした - フリーコースは短期コースと長期コースを実施し、習熟度の差を確認した - 中上級クラスは、南日本新聞紙社のコラム「南風録」を授業に取り入れて、「読む」「書く」への苦手意識の軽減を図った								

▶ ② フリーコース(中上級コース)長期

項目	内容
人数	9人 (ベトナム5名、台湾3名、ミャンマー1名)   
利用教材	南日本新聞紙社のコラム「南風録」
教員	5名 (授業担当講師1名、運営サポート4名)
当クラスの学習時間	90分(1コマ)×9回 合計810分

取組の概要（話す（やり取り））

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	

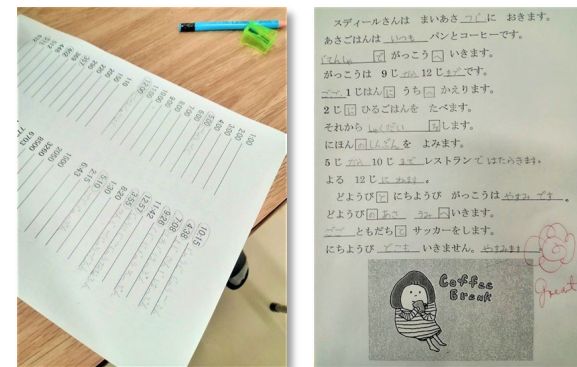
取組のポイント

- ・ 教室とオンラインのハイブリッド授業と、オンデマンドの予習復習を組み合わせたハイフレックス型で実施。
- ・ 2段階のCan-doチェックを行い、授業後に受講者が各自で実施し、次回にさらに前日の授業のおさらいとして教員が受講者に実施した。
- ・ オンライン参加者が取り残されない工夫として、授業開始時・終了時に教室学習者にカメラを向け、オンライン参加者と挨拶し、既習フレーズを使って会話を楽しむ時間を作った。

項目	内容
目標	・ 日本語の正しい発音を習得する ・ 簡単な挨拶でコミュニケーションをとる ・ 日常場面での会話を身に付ける
教育内容	・ 簡単な挨拶のフレーズを反復練習により定着を図る ・ 絵教材を活用し、場面設定による日常での簡単な会話を習得させる
学習方法	・ 文型、パターン練習、ペア練習 (授業開始・終了時のオンライン参加者と教室参加者の交流)

項目	内容
評価方法	・ 小テスト 指定した場面会話を覚えて言えるか ・ 宿題 日常会話として覚えるべきフレーズ等
学習効果	・ 友達との会話など、自然な表現が身についた

(Can-doチェック)



▶ 有識者からのコメント



- ・ 教室と個人をオンラインで繋ぐと、どうしても間に教員が介在してしまう中で、教室の学習者とオンラインで参加する学習者の会話等の工夫があって良い。

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
		◎	◎	◎	◎		◎
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
		◎					

取組のポイント

- 中上級クラスへ進み、進学を目前にした学習者は、志望理由や小論文が書けず苦勞する場面がみられるため、「読む」「書く」に注力するクラスとした。
- 新聞のコラムを教材とし、教室の学習者同士が練習した会話を、オンラインで参加している学習者に聞いてもらったり、教室の学習者と現地学習者とのペア練習を行った。

項目	内容
 目標	音読された長い文章を理解することができる。
 教育内容	- 教員の範読や他学習者の音読を聴き、漢字の読み方やカタカナの発音を習得する。 - 教員と他学習者の会話を聴き取り、内容を把握する
 学習方法	- 教員の範読 - 他学習者の音読 - 他学習者の会話を聞く

項目	内容
 評価方法	漢字の読みが正しく聞き取れたか、ふりがなを書かせてチェックする
 学習効果	- 聴き取りの難しい長音や撥音、濁音などを以前よりも正しく聴き取れるようになった。 - 学習者は、対面オンラインとも概ねB2レベルに達した。 - 対面は数名C1レベルに達した学習者もいた。

▶ 有識者からのコメント



- 新聞やニュースを活かした授業は対面でも実施しているが、学習者が興味のあるニュースを授業中その場で検索する等、ICTを活かしたやり取りがあるとより良いだろう。



A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
		◎	◎	◎	◎		◎
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
			◎				

取組のポイント

- 中上級クラスへ進み、進学を目前にした学習者は、志望理由や小論文が書けず苦勞する場面がみられるため、「読む」「書く」に注力するクラスとした。
- 新聞のコラムを教材にし、「用意スタート」の合図で一斉に読み、速さを記録し上達度を確認できるようにした。
- 適当な速さと聞き取りやすい発音で読めるようになった。

項目	内容
 目標	現代の問題についての記事を読むことができる。
 教育内容	教材を適当なスピードで正しい発音で音読する。日本語の発音の基本練習を取り入れ、聞き取りやすい発音ができるよう指導する。
 学習方法	- 教員の「用意スタート」の合図で一斉に読み始め、読み終わったら挙手し、かかった時間を記録する。 - 発音の苦手な部分を確認し練習する。（文章を母音だけで読む練習）

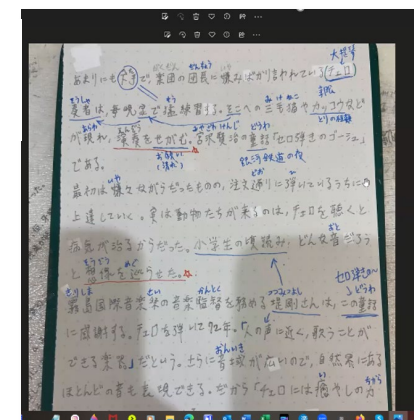
項目	内容
 評価方法	教材を適当な速さで正しく音読できるか、初見と内容把握後の速さの差を確認する。
 学習効果	- 適当な速さで、以前よりも聞き取りやすい発音で音読できるようになった。 - 新聞記事を読むことに慣れ、文字の多い新聞や書類などへの抵抗感が緩和された。

（書き取り・ふりがなの確認後の音読練習）

▶有識者からのコメント



- 新聞やニュースを活かした授業は対面でも実施しているが、学習者が興味のあるニュースを授業中その場で検索する等、ICTを活かしたやり取りがあるとより良いだろう。



外形情報

- 2017年創設
- 静岡県沼津市
- 事業期間 2022年10月5日～2023年1月31日

オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	MUFG 三菱UFJリサーチ&コンサルティング		
○	◎	◎		進学	就職	一般
◎				◎		
A1	A2	B1	B2	C	話す (やり取り)	話す (発表)
◎					◎	◎
		聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他
		◎	○	○		

▶ 実証事業のきっかけ、抱えていた課題 (before)

- ・ 新学期の開始に入学が間に合わない学習者の学習が遅れていた。
- ・ 海外向けのオンラインクラスを実施しても著作権の都合から使用できる教材が限られてしまう課題があった。
- ・ 学校独自の教材を作成し、留学を希望する学習者、入学予定者へのオンライン学習を充実させたいと考えていた。

▶ 実証事業を通じて得た成果 (after)

- ・ オリジナル教材を用い、著作権を気にせずオンライン授業ができるようになった。また、動画を活用して予習や復習など学習者の自律的な学習を促す環境を整えることができた。
- ・ ハイブリッド授業を行うことで、入学が遅れている学習者が学習を進めながらすでに入学済みの学習者と関係を築き、入学後もスムーズにクラスに入れるようになった。

▶ 具体的な取組・工夫 (action)

- ・ 2022年度10月生は、入学済み学習者のクラスと入学が送れている学習者をオンラインでつないでハイブリッド授業の実施。
- ・ 入学が遅れている学習者の日本語学習を進めるだけでなく、入学後にクラス活動が円滑に進められるように、教室の学習者とオンライン上の学習者の間でコミュニケーションの機会を多くとる。
- ・ 本校オリジナル教材 (A1,A2) の作成。
- ・ 教材はCEFR、参照枠をもとにCan-doを作成し、インプット用とアウトプット用の教科書を分冊にして作成。また、教材に準拠した予習動画も作成。見る、聞くことで知識を獲得し、やり取りを通じて産出できるものを目指し教材を作成した。
- ・ 日本への留学を希望する学習者に対し、オリジナル教材を使用したオンライン授業を実施。
- ・ ネパールに渡航し、実際に学習者が現地でオンライン授業を受講する様子を視察。

▶ 今後の展望

- ・ 実際にオンライン授業を行ったことでオリジナル教材の修正点、改善点が多く見つかったので、教材の改善・作成を継続しつつ、入学前オンライン授業を充実させ、入学前に学習者の日本語能力を向上させる。
- ・ 現地視察を行ったことで、オンライン授業の受講には現地通信環境の整備も必要であるとわかった。海外でも通信環境を気にせずオンライン学習が進められるように在外機関との協力体制を築き、オンラインコースの実施も検討したい。

取組の概要

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎					◎		
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
◎	◎	◎	○	○			

※◎は当事例で特に注目される実践事例（次ページ参照）

取組のポイント

- ・ 入国が遅れている学習者がハイブリッドで授業に参加することで、学習の遅れを最小限にすることができた。
- ・ 日本に留学を検討している学習者も活用できるよう、教材等をオリジナルで作成。
- ・ 「話す（やり取り）」では、Can-doに応じた教材動画（オリジナル制作）の事前学習により、学習者同士の練習に力を入れられた。また、「話す（発表）」では、Zoom投票機能で学習者の相互評価を実施した。
- ・ 「聞く」では、上記のオリジナル教材の動画を用いて、教材動画はイラストを多く使用し、会話の字幕を有と無の2パターンを制作したことで「聞く」ことに集中させることができた。

実施事項

項目	内容								
	<table><tr><td>オンライン</td><td>ハイブリッド</td><td>オンデマンド</td><td>ハイフレックス</td></tr><tr><td>○</td><td>◎</td><td>◎</td><td></td></tr></table>	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	○	◎	◎	
オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス						
○	◎	◎							
手法	・ 対面は教室にて通常の授業を実施 ・ 海外からのオンライン学習者は、現地紹介機関の教室および自宅からそれぞれのネット環境下において各自所有のデバイスにて参加。								
事業全体	・ フリー2コース（ハイブリッド・オンライン授業） ・ オリジナル初級教材の作成 ・ 同教材に準拠する学習動画の作成 ・ 新入生向け日本事情動画の作成								

「コース1」の例



項目	内容
人数	対面13名、オンライン10名 (ミャンマー・ネパール・バングラデシュ)
利用教材	・ 教科書類 ・ 練習問題集（副教材として作成） ・ 場面会話絵カード ・ かなワークブック（学校独自のもの） ・ 漢字テスト（副教材として作成）ほか
教員	5名
当クラスの学習時間	1日（3時間）×全31回 合計93時間

取組の概要（話す（やり取り））

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
話す（やり取り）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	

取組のポイント

- すでに入国した学習者のクラスと、入国が遅れている学習者をあわせてハイブリッドで授業を行った。
- Can-doに応じた教材を学校独自に作成し、会話練習に活用。評価はZoom投票機能で学習者相互で行った。

項目	内容
目標	日常のあいさつや自己紹介など基礎的な日本語での意思疎通ができるようになる。
教育内容	学習目標をCan-doで示したオリジナル教材で場面会話の練習を行う。
学習方法	- 学習した表現、語彙を用いて学習者同士で簡単なやり取りを行う。 - 場面会話を聞き、学習者同士で会話練習を行う。

（オリジナル教材）

13 **ピアノを弾きながら歌を歌うことができます。**

目標 43 : 自分や周りの人の行動をくわしく話しましょう。

目標 44 : 趣味、得意なこと、できることについて、友だちと話しましょう。

conversation

日本の「ようり」
「ハシ」
「おひき」
「せんしゅう」
「先週」

「ようり」
「好き」
「しゅみ」
「音楽」
「音楽」

項目	内容
評価方法	- 入国後に会話試験を実施。 - オンラインではZoomの投票機能を用い学習者同士の相互評価を実施。
学習効果	- 入国後のプレースメントテストを実施した結果、オンラインでクラスに参加していた学習者は先に入国した学習者との日本語力の差もほぼ見られなかった。 - 教材をインプット用とアウトプット用の分冊にしたことで、学習者はまず言語知識を理解・整理することで知識を獲得し、それを学習者個人がそれぞれ獲得できた知識の範囲内で無理をせず自身が使用できる語彙・表現を用いて課題の通りに発話し、コミュニケーションをとることができるようになった。

▶ 有識者からのコメント



- ハイブリッドでの授業実施において、オリジナル動画教材も含め、授業設計がしっかりできていて良い。
- Zoomの投票機能をつかって相互評価を行った点も良い。

Grandeur Global Academy 沼津校 ハイブリッド

取組の概要（話す（発表））

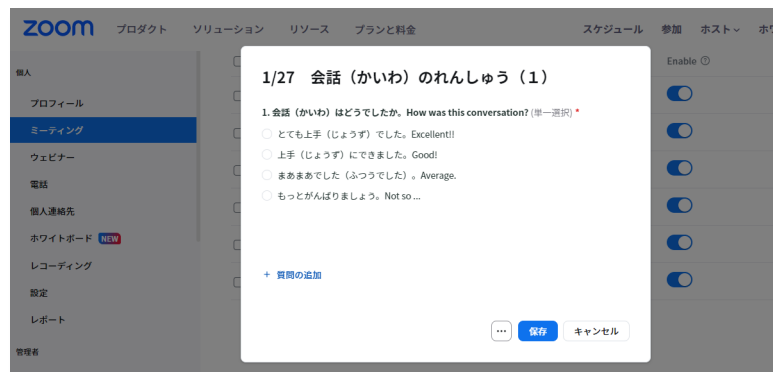
A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	

取組のポイント

- ・ ハイブリッド授業で発表機会を設け、Zoomの投票機能も活用して学習者同士の相互評価を行った。
- ・ 相互評価により、入国が遅れてハイブリッド参加している学習者において、入国前から同じクラスの学習者との関係が構築される副次的な効果もあった。

項目	内容
目標	・ 学習した表現を使ってクラスメイトの前で、30秒～1分程度の自己紹介ができる。
教育内容	・ 自分や家族等に関する身近なことについて、簡単な言葉を用いて、聴衆に対して自己紹介する。
学習方法	・ 自分や家族等に関する身近なことについての簡単な表現を学習し、メモなどの書いたものを見ないで発表する練習をする。

項目	内容
評価方法	・ Zoom投票機能も用いて相互評価を実施。 ・ 学習者が発表後、教員が評価し、フィードバック。
学習効果	・ 学んだ表現を使って学習者同士が相互に発表し、それを聞き、評価することで、クラス全体としての達成感に繋がった。 ・ 入国の遅れがあってもハイブリッドで授業に参加させることができれば、入国前から同じクラスの学習者との関係も構築され、学習の遅れを最小限にすることができた。



（Zoomの投票機能を用いて相互評価）

▶ 有識者からのコメント



- ・ オンライン、ICTを活かした取組として、Zoomの投票機能などを活用している。
- ・ 録画が簡単にできることを活かして、学習者にフィードバックをしたり、個人に合わせて授業以外でも使えるとよかった。

取組の概要（聞く）

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎					◎		
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
		◎					

取組のポイント

- ・ 日本に留学を検討している学習者も活用できるよう、教科書・イラスト・動画・問題集などの教材一式をオリジナルで作成。
- ・ 動画は、Can-doに応じた場面会話について、字幕「有」と「無」で制作。予習・復習等、学習進度で使い分けて活用できるようにした。

項目	内容
 目標	・ 他者の行為や意思についての発話を聞き取り、理解できるようになる。
 教育内容	・ 短文、会話文を聞く。
 学習方法	・ Can-doに応じた表現を用いた単文、場面会話を聞く。

項目	内容
 評価方法	・ 聞いた内容（例文や会話）を口頭で言わせ、教員がその場で確認。 ・ 2～6回目の学習項目をもとに8～10回目の授業でまとめた文章を読み、内容についてのアウトプットができるか測る。
 学習効果	・ 教材はできるだけ文字情報を少なくしてイラストを多く使用したため、「聞く」ことに集中できた。

▶ 有識者からのコメント



- ・ 学習者が予習復習を自律的に行う工夫がなされている。
- ・ 学習者の聞き取りの学習進度に合わせ、学習方法に選択肢がある点がとても良い。

字幕「有」



字幕「無」



（オリジナル動画）

オンライン		ハイブリッド		オンデマンド		ハイフレックス			
◎		◎							
A1		A2		B1		B2		C	
◎		○		○		◎		○	
話す (やり取り)		話す (発表)		聞く		読む		書く	
◎		○		○		○		○	

進学	就職	一般
◎	○	○
日本事情 日本理解	その他	
○	○	

外形情報

- 2014年創設
- 東京都豊島区
- 事業期間（当事業契約期間）2022年8月10日～2022年1月

▶ 実証事業のきっかけ、抱えていた課題（before）

- ・ コロナ禍の影響で、海外からの入学予定者・入学希望者が大幅に減少していた。
- ・ 事業に参加することで、学校の知名度を上げ、今後の留学生募集のきっかけを作るとともに、来日前の学習者の日本語力の底上げを行い、来日後のスムーズな学習につなげたいと考えた。

▶ 実証事業を通じて得た成果（after）

- ・ 100%オンラインでの授業実施のノウハウ・教材等の拡充、受け入れの枠組みができた。
- ・ 入国待ちの学習者のモチベーション維持に寄与した。また入国後の日本生活・学校生活への適応力が上がった。
- ・ 受講者のうち、当校への留学希望者、また有料クラス継続者が10%ほど出た。

▶ 今後の展望

- ・ 今後の入国予定者に関しては今回構築した枠組みでオンラインでの入学前日本語教育を行い、入学後のカリキュラムと接続させる。
- ・ 通常の留学クラスとは別に、常時オンラインクラスの運営を行い、潜在的な留学予定者の獲得、または日本国内在住者および国外在住者の細かい需要に応える学習機会を提供としたい。

▶ 具体的な取組・工夫（action）

- ・ 入学決定者向けに、表記や初級レベルの会話、その他基礎力を養成するための「留学準備コース」を設定。学内作成教材を使用し、来日前にできる限り日本語レベルを上げるため、言語活動については特に「話す・書く」の2技能に注力し、学習者母語話者教師を在中をさせ、日本語母語話者教師と産出活動を行う工夫を行った。「一般（会話）コース」は会話力向上希望者を対象とし、日本での生活を見据えた日常での簡単なやり取り（入国/入寮/ごく簡素な行政手続き等）ができるようになることを目的とした。そのため、言語活動は特に「やり取り」に注力し、実場面での練習やロールプレイ等の工夫を行った。
- ・ オンラインでは、4技能バランス良く伸ばすのが難しく、特に「書く・聞く」で工夫を要した。機械を通すと対面の生の声とはまた違った聞きづらさがありネット環境の問題もあった。「書く」は教員に配布したタブレットやタッチペンで画面をミラーリングながら書く・見せる等工夫した。
- ・ 知名度向上のため、説明会実施や受講者の人数獲得を目標とした。

取組の概要

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎	○	○	◎	○	◎	○	○
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
◎	○	○	○	◎	○	○	

※◎は当事例で特に注目される実践事例（次ページ参照）

取組のポイント

- 国内の日本語教育機関では難しい母語によるサポートを付けて授業を実施し、学習の効率化を図るとともに、日本語母語話者教師によるアウトプット練習を重ねることで、効果的に4技能のスキルおよび総合的なコミュニケーション力を伸ばした。
- ひらがな未習の学習者がほとんどであったため、重点的に文字学習を行った。
- タブレット端末・タブレットペン・SNS等を活用して、学習者の成果物に対してクラス全体・または個人別にフィードバックができるよう工夫した。

実施事項

項目	内容								
手法	<table><tr><td>オンライン</td><td>ハイブリッド</td><td>オンデマンド</td><td>ハイフレックス</td></tr><tr><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr></table> オンライン授業と対面授業を組み合わせたハイブリット授業	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	◎	◎		
オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス						
◎	◎								
事業全体	- ウズベキスタン、ネパール、フィリピン、ベトナム、中国、マレーシアの学習者を対象に、3コース実施した - 母語話者のチューターを付けて授業を行い、学習の効率化を図った								

「会話コースIクラス」の例

項目	内容
人数	7名（中国） 
利用教材	指定教材なし（クラス内で各自持ち寄り）
教員	7名 （授業担当講師6名、運営サポート1名）
当クラスの学習時間	1日75分1コマ 週3回×8週間 合計35時間

取組の概要（話す（やり取り））

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
			◎		◎		
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
◎							

取組のポイント

- 国内の日本語教育機関では実施が難しい現地母語のサポートを付けて学習の効率化を図るとともに、日本語母語話者教師によるアウトプット練習を重ねた。

項目	内容
 目標	- 幅広い語彙表現や口語表現を自在に織り交ぜ、自分の伝えたいことを流暢に話せる。 - 話題も身近なものから自分の専門分野であれば正確に細かいニュアンスまで伝えられる。
 教育内容	- 受講者間、教員間の活発で理解を促進させる質疑応答。 - 質疑や聞き手からの指摘等による、内容ややり取りの変化への臨機応変な対応。 - 円滑でニュアンス等に配慮したやり取りのための新しい表現・語彙等の習得。
 学習方法	- 授業内での受講者間、受講者・教員間の質疑応答。やり取りの中での質疑や指摘等への受け答え。 - 授業内での必要に応じた表現・語彙の習得。 - 授業中に母語話者教師により授業をサポートした。

項目	内容
 評価方法	- 授業内での受講者間・教員間によるコミュニケーションのやり取りの確認 - また発表内容への質問等から確認。
 学習効果	- 幅広い語彙表現や口語表現を自在に織り交ぜ、自分の伝えたいことを流暢に話せていた。 - 受講者の多くが、話題も身近なものから自分の専門分野であれば正確に細かいニュアンスまで伝えられていた。

▶ 有識者からのコメント



- 母語サポートは、テクニカルサポートという観点でも意味がある。
- また、母語サポートの確保のしやすさは、オンラインのメリットでもある。

取組の概要（書く）

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎					◎		
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
				◎			

取組のポイント

- ・ ひらがな未習の学習者がほとんどであったため、重点的に文字学習を行った。
- ・ タブレット端末・タブレットペン・SNS等を活用して、学習者の成果物に対してクラス全体、または個別にフィードバックができるよう工夫をし、対面環境と変わらない状況で文字学習を進めた。

項目	内容
 目標	・ 自分の情報、生活環境等、身近でかつ明示的な話題であればやや短い内容を独力で書くことができる。 ・ 辞書があれば申請や予約等の規定された様式に必要な情報の記入ができる
 教育内容	・ ノートテイク、メモ作成、文作成等の表記の書き取り。 ・ ひらがな、カタカナ、漢字等の文字学習。 ・ あるテーマについての200～300字程度の短作文の実施。
 学習方法	・ 状況に応じた板書やメモの書き取り。 ・ タブレット端末・オンラインツール・SNS等を活用した文字学習。 ・ 状況・テーマに応じた自由な文作成。 ・ あるテーマについての200～300字程度の短作文とそのフィードバック。

項目	内容
 評価方法	・ 授業内の短い作文 ・ 提出物・成果物
 学習効果	・ 自分の名前や国籍、住所等のごく身近で簡単なものであればほぼすべての受講者が短い内容を独力で書くことができた。 ・ 辞書や丁寧な補助があれば申請や予約等の規定された様式に最低限の記入ができていた。

▶ 有識者からのコメント



- ・ タブレットを活用し、個別フィードバック等、ICTを活用されている。
- ・ Googleのスプレッドシート等、まだまだ書くについては活用できるアプリケーションがあるので、是非今後も活用して欲しい。

南大阪国際語学学校

オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス			
◎		○				
A1	A2	B1	B2	C	進学	就職
◎	○	○			○	○
						◎
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他
◎	◎	○	○	○		○

外形情報

- 2018年創設
- 大阪府藤井寺市
- 事業期間 2022年9月6日～2023年1月31日（当事業契約期間）

▶ 実証事業のきっかけ、抱えていた課題（before）

- ・ 海外現地へのオンライン授業の可能性を探る
- ・ オンライン授業のみで学習環境の可能性を探る
- ・ 親子参加型の日本語教育の可能性を探る

▶ 実証事業を通じて得た成果（after）

- ・ 海外現地から直接日本語教育を提供することで、留学後もよりスムーズに学習を継続できる環境を整えることが可能となった
- ・ 海外現地のオンライン学習環境の整備（ハード面）に諸所の課題があることがわかった
- ・ 教員のオンライン授業に対する抵抗感の低下

▶ 具体的な取組・工夫（action）

- ・ ネイティブ話者とのやり取りの機会を可能な限り増やす
- ・ レベルに合わせ、スピーチやミニプレゼンなど日本語による発信の機会を設ける
- ・ 教員評価だけでなく、自己評価、学習者同士の評価も取り入れ、評価をすることを1つの学習項目とする
- ・ 留学希望者向けには本学正規生との交流の場を設けることで日本留学のイメージの具現化を図る
- ・ 学習者同士の関係性構築のための時間を確保する（休憩時間・母語OKタイム・SNSでのグループチャット活用）
- ・ 現地のオンライン環境が困難だったコースは、アナログでカバーする
- ・ 既存の著作権フリーの教材を有効利用する

▶ 今後の展望

- ・ 留学希望者及び予定者への海外現地からの日本語教育にオンライン授業を提供、もしくは現地の日本語学校と連携を取りながら現地にいるときから学習支援を行う
- ・ 親子参加型など、地域と連携し、地域向けの事業ができればよいと考えている

取組の概要

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎	○	○			○	○	◎
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
◎	◎	○	○	○		○	

※◎は当事例で特に注目される実践事例（次ページ参照）

取組のポイント

- 日本での生活を予定している一般の学習者（親子2組+高校生）であり、オンライン授業のほか学習者同士がSNSを利用した日本語でのやり取りなどが行われた。
- 「話す（やり取り）・（発表）」では、授業内の自己評価を丁寧に実施し、授業外では自律学習のサイクルの活用や、学習者間や教員からの評価シートなど学習意欲を促進した。
- 「書く」では、オンラインでボードやチャットの使用、手書きのノートの画面共有、SNSを用いて学習者グループでの日本語入力などを活用した。

▶ 実施事項

項目	内容								
手法	<table><tr><td>オンライン</td><td>ハイブリッド</td><td>オンデマンド</td><td>ハイフレックス</td></tr><tr><td>◎</td><td></td><td>○</td><td></td></tr></table> • 自宅でオンライン受講 • 自宅での反転授業	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	◎		○	
オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス						
◎		○							
事業全体	• 中国人・ベトナム人向けのコースを4コース実施した • 授業にチューター兼通訳を付け、トラブル対応を行った								

▶ 「フリーコース①」の例

項目	内容
人数	中国人5名 (小学6年生と母親、高校1年生と母親、  高校1年生)
利用教材	いづれ初級入門
教員	3名（授業担当講師2名、運営サポート1名）
当クラスの学習時間	90分×週3回×12週間 合計36時間

取組の概要（話す（やり取り））

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎							◎
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
◎							

取組のポイント

- 日本での生活を予定している学習者（親子2組＋高校生）において、オンライン授業のほか学習者同士でのSNSを利用した日本語のやり取りなどが行われた。
- オンデマンドを活用した反転授業を導入したが、自律学習が困難な学習者もいたため、授業内での自己評価を丁寧に実施し、教員からの評価シート等で学習意欲を促進した。

項目	内容	項目	内容
 目標	日本での生活を予定している学習者親子が、来日してすぐにスムーズに生活ができる必要最低限のやり取りを身につける。	 評価方法	- 毎授業時に、やり取りが成立したかどうか自己評価を行う。 - 自己評価方法は、定期的にまとめの日を設け、当日に復習を兼ねたスピーチの実施と簡単な自己評価アンケートによる振り返りを行う。 - 教員評価シート（月1回、計3回実施）
 教育内容	- 日常的によく話題とするテーマについて、その場でやり取りをすることができることを目指す。 - 単元の文例にとらわれず、各テーマに関連した表現や言葉を自然に使えるようになることを目指す。	 学習効果	- 自身の日本語でやり取りができることが実感でき、モチベーションとなり話す力が向上した。 - 授業外では、学習者同志SNSでやり取りができる環境を作り、家庭で自律学習が行えるようになった。
 学習方法	学習者同士、教員对学习者とのやり取りの中で、相手の発話内容を理解する。		

▶ 有識者からのコメント



- 自己評価を最初から計画的に実施したのが良い。
- 今後、学習者が学ぶ場所が変わった後も学習を続けるにあたり、現在の自分の状況（能力）を自分自身で把握できている必要があり、自分の評価が正しくわかることで、自立した学習者になれる。

取組の概要（話す（発表））

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎							◎
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
	◎						

取組のポイント

- 学習内容に応じて複数回のスピーチを実施し、多面的な評価を行った。
- 海外学習者において、日本語学習歴があっても「発表」まで行ったことがある学習者は少ない中で、オンライン授業で日本人の教員に対して話すことができ、学習者の自信につながった。

項目	内容
 目標	自己紹介や、ごく身近な話題について説明する、語ることができる。
 教育内容	学習内容からテーマを各自1つ選び、自分について語る時間を設ける。
 学習方法	計6回のスピーチを実施

項目	内容
 評価方法	- 自己評価シート - 他者評価シート - 教員評価シート
 学習効果	- 学んだ内容を運用する経験を通じ、発表の準備において応用するなど、学習意欲につながった。 - 身近な話題や自身の関心事について、感想を述べたり、説明したりすることができるようになった。

▶ 有識者からのコメント



- 自己評価を最初から計画的に実施したのが良い。
- スピーチの様子を録画しアーカイブ化して振り返ることができるようにすると、自身の学習に一層繋がる。

外形情報

- 1988年創設
- 兵庫県神戸市
- 事業期間 2022年10月05日～2023年1月31日（当事業契約期間）

オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス
◎			○

A1	A2	B1	B2	C
○	○	◎	◎	

話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く
◎	○	○	○	○

進学	就職	一般
○	◎	○

日本事情 日本理解	その他

▶ 実証事業のきっかけ、抱えていた課題（before）

- ・ 来日前の学習者の日本語運用能力をできるだけ引き上げたいと考えており、来日後の生活がスムーズにできるよう、あらかじめ情報を伝えておきたいと考えていた。
- ・ オンライン授業での評価をLMSを使う、または対面授業と同じように教員が直接テストを実施するなど、適切な方法はあるか模索していた。

▶ 実証事業を通じて得た成果（after）

- ・ 初級の学習者は、「話す」、「聞く」について向上したと手ごたえを感じた。中上級者においては、日本語運用力向上もさりながら、就労を視野に入れた日本事情に関して詳しく知識を伝えることができた。
- ・ オンラインでも特に会話は対面授業と同じ評価表を使って評価できることがわかった。

▶ 具体的な取組・工夫（action）

- ・ 就労コースは、毎回動画を保存し、後日見られるようにした。Google classroomの機能を使って、コースの疑問点や課題提出、教員からの指示などを適宜行い、学習者とのやり取りにも利用した。最後のプレゼンテーションでは、コースを通じて日本語運用力がどう伸びたか自己評価を発表してもらい、そのスピーチを教員が当校で使用している評価表に基づいて評価し、後日フィードバックした。学習者からは、「非常に役に立った」という感謝の言葉があった。
- ・ 初学者コースでは、学習者が日本語で長文を入力することが難しいので、毎回Can-doリストを提出してもらうようにした。その際、教員から「Can-doリスト、ありがとう」と声をかけたり、Google classroomを使って、宿題や提出物をうながした。
- ・ また、初学者コースは、中間会話テストと最終会話テストを行い、当校で使用している評価表を使い客観性を保つようにした。

▶ 今後の展望

- ・ 就労者コースの参加者から、日本留学希望が実際に出ており、学習者募集の一助となることは確実である。
- ・ 留学の動機が高い学習者へのオンライン教育は、留学前の学習手法として大変有用であり、今後も実施していきたい。
- ・ 国際情勢に変化があったとしても、日本語学習へのモチベーション維持に非常に有効であり、希望者にはぜひ進めていきたい。

取組の概要

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
○	○	◎	◎		○	◎	○
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
◎	○	○	○	○			

※◎は当事例で特に注目される実践事例（次ページ参照）

取組のポイント

- ・ 毎回動画を保存し、後日見られるようにした。Google classroomの機能を使って、コースの疑問点や課題提出、教員からの指示などを適宜行い、学習者とのやり取りにも利用した。
- ・ 「話す（やり取り）」では、就労に関する面接での自己紹介等、具体的な内容を学習。
- ・ 学習者同士で感想や質疑応答を行う。Can-doをベースにしたオリジナル評価シートで教員による評価を実施。

実施事項

項目	内容								
手法	<table><tr><td>オンライン</td><td>ハイブリッド</td><td>オンデマンド</td><td>ハイフレックス</td></tr><tr><td>◎</td><td></td><td></td><td>○</td></tr></table> ・ 学習者は自宅でオンライン学習。 ・ 課題の確認などはその都度Google classroomを通じて行う。	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	◎			○
オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス						
◎			○						
事業全体	・ 3クラス（就労コース1クラス・留学コース2クラス）実施。 ・ オンライン授業のやり方（特に学習者からのフィードバック・成績管理）について教員のレベルをアップする。								

「就労者コース」の例

項目	内容
人数	14名（フランス・タイ・ロシア）
利用教材	・ 『伸ばす！就活能力・ビジネス日本語力』をもとにしたPPT ・ 教員自作の補助PPT
教員	4名 （授業担当講師3名、運営サポート1名）
当クラスの学習時間	1日1コマ（90分）×週3回×12週間 合計54時間

取組の概要（話す（やり取り））

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
		◎	◎			◎	
話す（やり取り）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
◎							

取組のポイント

- ・ 毎回動画を保存し、後日見られるようにした。Google classroomの機能を使って、コースの疑問点や課題提出、教員からの指示などを適宜行い、学習者とのやり取りにも利用した。
- ・ 評価は、学習者の自己評価と、教員からの評価（Can-doをベースにしたオリジナル評価シート）を実施した。

項目	内容
 目標	・ 就職活動や就職後のプレゼン等において、自分の意見を説明し、場に即した反応をすることができる。
 教育内容	・ 就職活動の面接での自己紹介・プレゼンでの質疑応答・電話応対。
 学習方法	・ 学習者同士で発表の感想や質疑応答し、面接の練習として教員とやり取りすることを通じて、場に即した反応をする。 ・ 毎回動画を保存し、後日見られるようにした。Google classroomの機能を活用し、課題提出等、教員と学習者のやり取りに利用。

項目	内容
 評価方法	・ 会話テスト（中間および最終） ・ コース終了時に行う学習者の自己評価（学習者自らのレポートによる評価）。 ・ Can-doをベースにした当校オリジナルの評価シートをもとに、プレゼン時の学習者どうしのやり取りを教員が評価する。 ・ コース終了時に教員が日本語能力全体ついて各人に評価シートを渡す。
 学習効果	・ 就職活動や就労でのやり取りにおいて、早い反応で、素直に自分の意見を言えるようになった。

<自己評価>

授業を受ける前と今の違い（レジュメ）

3ヶ月間、お世話になりました。このオンラインコースでの先生方からいただいた指導をいただき、心から感謝しております。これから日本の会社で働き続けたい私にとって日本語日本語の授業は大変役に立ちました。授業の目標はすべて達成でき、授業に必ず役立つと思います。

1) 先生方や他の生徒とのやり取り
このコースのおかげ、新しい日本語や聞きかたは私にとってとても役に立ちました。楽しかったです。毎回の授業のトピックについて積極的に意見を述べて、日本語で考えるチャンスもできました。前と比べると、コミュニケーション能力は高まったと思います。

2) 発表
発表のルールについて何も知りませんでした。前は声の調子、態度、アイコンタクトについて考えることがありませんでした。授業でたくさん新しい知識が得られました。

3) 聞く
私の能力も高まりました。毎回の授業の知識や質問を聞き、教科書からの会話やロールプレイも聞き取れました。

4) 書く
毎回の授業があり、日本語で書くのをたくさん練習しました。そして、ビジネスの場合は、毎日メールやレポートを書く必要がありました。この大変な作業を通して、私にとって一番興味深いテーマは履歴書とメールでした。前は日本語で書くこともなかったし、授業のため役に立つと思いました。

5) 読む
毎回の授業で新しい言葉が出てきました。先生方の分かりやすい教え方のおかげで、日常生活でも仕事でも使える言葉がたくさん覚えられました。そして、ビジネスと関する英文が理解しやすくなりました。前と比べると、読解力も高まったと思います。

<教員からの評価>

評価シート

氏名：[]

授業：[]

学習者：[]

授業の目標はすべて達成でき、授業に必ず役立つと思います。

1) 先生方や他の生徒とのやり取り
このコースのおかげ、新しい日本語や聞きかたは私にとってとても役に立ちました。楽しかったです。毎回の授業のトピックについて積極的に意見を述べて、日本語で考えるチャンスもできました。前と比べると、コミュニケーション能力は高まったと思います。

2) 発表
発表のルールについて何も知りませんでした。前は声の調子、態度、アイコンタクトについて考えることがありませんでした。授業でたくさん新しい知識が得られました。

3) 聞く
私の能力も高まりました。毎回の授業の知識や質問を聞き、教科書からの会話やロールプレイも聞き取れました。

4) 書く
毎回の授業があり、日本語で書くのをたくさん練習しました。そして、ビジネスの場合は、毎日メールやレポートを書く必要がありました。この大変な作業を通して、私にとって一番興味深いテーマは履歴書とメールでした。前は日本語で書くこともなかったし、授業のため役に立つと思いました。

5) 読む
毎回の授業で新しい言葉が出てきました。先生方の分かりやすい教え方のおかげで、日常生活でも仕事でも使える言葉がたくさん覚えられました。そして、ビジネスと関する英文が理解しやすくなりました。前と比べると、読解力も高まったと思います。

有識者からのコメント



- ・ 自己評価を導入したり、教員評価をフィードバックするのは良い。
- ・ 今後、学習者が学ぶ場所が変わった後も学習を続けるにあたり、現在の自分の状況（能力）を自分自身で把握できている必要があり、自分の評価が正しくわかることで、自立した学習者になれる。

さくら東京日本語学校

外形情報

- 2016年創設
- 東京都新宿区
- 事業期間 2022年7月20日～2022年1月24日

オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス			
	◎		○			
A1	A2	B1	B2	C	進学	就職
○	○	◎			◎	◎
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他
◎	○	○	○	○		

▶ 実証事業のきっかけ、抱えていた課題 (before)

- 新型コロナウイルスの入国制限の関係で、学校の経営・運営が危ぶまれる状況にあったが、かねてからオンライン授業（双方向）は行っており、ハイブリット型も対面での学習者が少ない中で行っていたが、入学辞退を防ぐ意味合いが強く、収益にはつながらない状況が続いた。
- 教員のオンライン授業への意識・技術は高くなかった。

▶ 実証事業を通じて得た成果 (after)

- 教員のオンライン授業への意識・技術は格段に上がった。
- 突発的な理由（コロナ感染などによる自宅待機など）でオンライン授業が必要な際も、抵抗なく対応できるようになった。
- 入国待機学習者への日本語教育方法として、オンライン授業も一つの有効な手段であることを認識できた。

▶ 今後の展望

- 入国待機学習者へのオンライン授業を行っていききたい。当校は現地スタッフがいることが強みであるため、学習者募集にも繋げ、日本語学校への入学前にも日本語能力の向上の機会を持っていききたい。
- オンライン授業は、機材の良し悪しが関係することを痛感したので、今後、IWB・周辺機器など優れた機材を購入することも検討する。

▶ 具体的な取組・工夫 (action)

- ハイブリット型授業では、オンラインでの受講者にどう見えているかを意識し、その都度カメラの角度を変えて教室内のホワイトボードに板書している内容が伝わるように心掛けた。また、対面授業の学習者に教室内でスクリーンを使い、オンライン参加の受講者には画面共有を用いパワーポイントなどで授業内容を共有し、一体感が出るよう努めた。授業内で日々行われる小テストなどは予め共有し、オンライン参加の受講者が時間を持て余すことのないよう努めた。
- 担当講師への勉強会を実施し、特に機材の取扱いや授業内でのカメラの位置などを確認した。
- 技術サポートを配置し、授業中の機材トラブル・通信の不具合などに迅速に対応した。
- 現地チューターを介して、カリキュラム・小テスト・定期テストなどについてこまめにオンライン受講者と連絡を取るようにした。

取組の概要

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
○	○	◎			◎	◎	
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
◎	○	○	○	○			

※◎は当事例で特に注目される実践事例（次ページ参照）

取組のポイント

- ・ 対面型と未入国学習者のオンライン学習のハイブリッドを実施。未入国学習者がオンライン学習に満足しモチベーションを維持できた。
- ・ 教員のオンライン教育スキルアップ、オンライン学習の日常化、入国前の学習者の日本語力向上に取り組んだ。
- ・ 全体を通して、ベトナム現地にもフォロー体制を敷きながら実施することで、現地参加者を置き去りにせず、ハイブリッド形式での効果的な授業を実施。

実施事項

項目	内容								
手法	<table><tr><td>オンライン</td><td>ハイブリッド</td><td>オンデマンド</td><td>ハイフレックス</td></tr><tr><td></td><td>◎</td><td></td><td>○</td></tr></table> ・ 対面での学習者は、教室で受講 ・ オンラインでの学習者は自宅から授業に参加	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス		◎		○
オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス						
	◎		○						
事業全体	・ 3クラス（初級・中級・初中級） ・ 教員向けに「オンライン日本語教育研修」の実施								

「コース2 中級クラス」の例

項目	内容
人数	14名（中国・モンゴル・ベトナム） （うち対面12人、オンライン2人）   
利用教材	・ 「TRY! N3文法から学ぶ」 ・ 「N3単語2000」 ・ 「1日15分の漢字練習 下」 ・ オリジナル教材（テストなど）
教員	2名 （授業担当1名、コース運営相談1名）
当クラスの学習時間	180分×週5回×20週 合計300時間

取組の概要（話す（やり取り））

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
		◎			◎	◎	

話す （やり取り）	話す （発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他
◎						

取組のポイント

- ・ ハイブリッド形式の場合、対面の人数によってオンライン参加者の対応が難しいが、トラブル対応も兼ねたベトナム人講師もオンラインで参加して授業を実施することで、置き去りにしないようにした。
- ・ 教員向けの研修を通じて教室とオンラインの双方の画面の見せ方を工夫し、やり取り（日本人講師⇔学習者、教室の学習者⇔オンラインの学習者）がシームレスに行えるようにした。

項目	内容
 目標	・ 日常的な場面で、ゆっくりとであれば会話ができる。A1～A2レベル。
 教育内容	・ あいさつ・簡単な日常会話。
 学習方法	・ 教員が文型を導入、練習後、ペアになり会話練習、ロールプレイ。 ・ ベトナム人講師がオンライン参加し、オンラインにて参加学習者をフォロー。

項目	内容
 評価方法	・ 授業での理解度とロールプレイなどを見て、教員が評価。 ・ 対面授業の学習者は会話テストで評価。
 学習効果	・ 日本人講師とのやり取り、対面学習者とのやり取りができ、モチベーションがアップした。

▶ 有識者からのコメント



- ・ 母語サポーターについては、ハイブリッドにおいて置き去りにしないためであったり、テクニカルサポートという観点で意味がある。
- ・ 母語サポートの確保のしやすさはオンラインのメリットでもある。

外形情報

- 2016年創設
- 千葉県佐倉市
- 事業期間 2022年7月25日～2022年8月27日

オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス
○		◎	

A1	A2	B1	B2	C
◎				

話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く
○	○	◎	○	○

進学	就職	一般
		◎

▶ 実証事業のきっかけ、抱えていた課題 (before)

- ・ 学習者には日本人との会話や日本人の教員の授業に触れてもらうこと、教員にはオンライン授業の経験を積んでもらうことをねらいとした。

▶ 実証事業を通じて得た成果 (after)

- ・ 日本語は少し学んでいる高校生であったものの、日本人の教員と日本語を学ぶことの楽しさを知ってもらうことができた。
- ・ 「ぜひ日本に行ってみたい」「いつか日本に留学したい」との声が聞かれ、日本により興味を持つ機会とすることができた。
- ・ 校内ではオンライン授業の経験と教材を蓄積できた。

▶ 具体的な取組・工夫 (action)

- ・ 中国で日本語を学ぶ高校生を対象とし、レベルは2つにわけた。
①ひらがな・カタカナのみ習得済みのクラス
②初級前半レベルの学習が終わっているクラス
- ・ オリジナル語彙リスト、オリジナル文法解説動画、クラスのレベルに応じた「eTRY!」の教材等を組み合わせて利用した。
- ・ 当校で作成してあった教材のスライドを、全教員が使用できるようにし、教材の共通化とレベルアップを目指した。
- ・ 毎日の授業終了時に対し、学習者に授業の振り返りを兼ねた簡単なアンケートを取り、学習状況の把握と授業内容の点検・反省ができるようにした。
- ・ 全クラスの授業記録をオンライン上で共有し、教員がお互いに参考にできるようにした。実施期間中に全体ミーティングを行い、意見や課題を出し合った。

▶ 今後の展望

- ・ 今回を機に整理したオリジナル教材や、オンライン授業の経験値を今後さらに充実させたい。
- ・ また、情報共有・教材共有の方法について学ぶことができた。今後、対面授業や学校運営全般に活かしていきたい。
- ・ 留学生はもちろんであるが、今後、在住者や就労者向けのオンライン授業も展開していきたい。

取組の概要

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎							◎
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
○	○	◎	○	○			

※◎は当事例で特に注目される実践事例（次ページ参照）

取組のポイント

- オンライン授業は、来日後の対面授業への予備教育の位置づけとして、継続実施できるカリキュラムや授業方法等確立し、全教員がオンライン授業を実施できる体制にすることを目標とした。
- まず、学校のオリジナル教材（動画・スライド）を、全教員が使えるように整理し、標準化を図った。
- 特に「聞く」において、教員が作成したオリジナル動画を予習復習に活用し、授業内では「話す」ことを強化したことで、学習者のコミュニケーション力が向上した。

▶ 実施事項

項目	内容								
手法	<table><tr><td>オンライン</td><td>ハイブリッド</td><td>オンデマンド</td><td>ハイフレックス</td></tr><tr><td>○</td><td></td><td>◎</td><td></td></tr></table> オンライン授業と、オリジナル動画を使ったオンデマンド授業	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	○		◎	
オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス						
○		◎							
事業全体	- 以下の2コースを実施 ①ひらがな・カタカナのみ習得済み ②初級前半レベルの学習が修了済み - オンライン授業の際は、現地にチューターを配置した - オリジナル動画を使った反転授業を行った。								

▶ 「初学者コース①」の例

項目	内容
人数	中国の16歳（新高校2年生）53名 
利用教材	『eTRY! START』 『eTRY! N5』 - オリジナル教材「初級ことば」「基本語彙」 - 練習用スライド
教員	16名
当クラスの学習時間	1日3コマ（135分）×週5回×5週間 合計54時間

取組の概要（聞く）

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎							◎
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
		◎					

取組のポイント

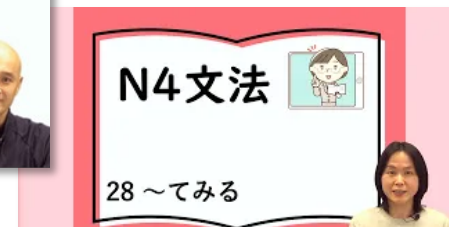
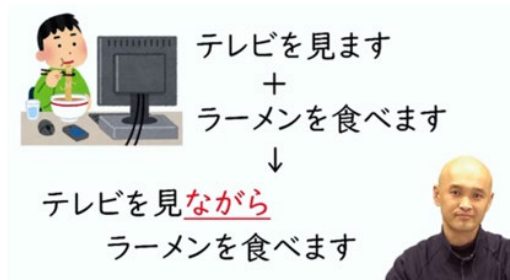
- 学校がオリジナルで作成した初級文法の学習動画を予習復習の教材として活用した。
- オンデマンド学習において、日本の文化の紹介を兼ねた動画を聞いて、「聞く」は事前学習で力をつけ、オンライン授業において「話す（やり取り）」を強化させることができた。
- 現地のチューターはテクニカルサポートの役割を担った。

項目	内容
 目標	• ほぼ初学者の学習者が、最低限の会話ができるようにしたい
 教育内容	• 教員からの説明後、学習者には自分の話を必ずさせるようにした。
 学習方法	• 予習復習ができるコンテンツ動画をみて、会話重視の授業を実施した

項目	内容
 評価方法	• 一人ずつのインタビューテストを実施
 学習効果	• 「たくさん話した」が多いコースは活気があり、また、学習者のテストの成績もよかった。

▶ 有識者からのコメント

- 事前学習を取り入れていることが良い。
- 現地のチューターがテクニカルサポートの役割を担うのは、ICTに慣れない人達の経験を養うことにもつながり、良い取組である。



（オンデマンド授業）

オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	MUFG 三菱UFJリサーチ&コンサルティング		
◎		◎		進学	就職	一般
◎	◎			◎	◎	○
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他
○	◎	○	○	○		

外形情報

- 1985年創設
- 東京都豊島区
- 事業期間 2022年9月1日～2022年12月末日（当事業契約期間）

▶実証事業のきっかけ、抱えていた課題（before）

- ・ オンライン授業を実施した経験やノウハウがなかったため、本事業を活用することで教員の指導力の底上げにつなげたい。
- ・ 海外の提携スクールから、当校によるオンライン日本語授業の希望が寄せられた。

▶実証事業を通じて得た成果（after）

- ・ 学習者にとっては来日前の授業体験により教員と面識ができるため、学校選びと来日に向けて安心感を与えられた。
- ・ オンライン授業を通じて日本語を学んだことで、日本留学・就労の意思を強固とすることができた。
- ・ e-ラーニングや自律学習を想定したテキストはわかりやすく、聞く力が伸びると実感した。授業回数を重ねるにつれ授業の進度が速くなっていった。

▶具体的な取組・工夫（action）

- ・ 「スピーチ」を通して「話す（発表）」活動の時間を大切にした。既習の文型を使用することや例文の語彙を入れ替えることで文章を作成できるように練習をした。
- ・ オンライン授業のうち5回目までは表記に注力した。
（例：字形／間違いやすい表記 「は」と「ほ」、
「あ」と「お」、「き」と「さ」、「ぬ」と「め」など）
- ・ 「予習」、「自律学習」という学習方法を学習者が習得するよう丁寧に指導。
- ・ e-ラーニングで話題となって登場した日本の観光地について、YouTubeを活用し、視覚的に日本への興味・関心を認識させることができた。
- ・ 毎回授業のスピーチテーマ原稿をカメラで撮影（電子データ）→ 日本で印刷 → 教員が添削 → 学習者別に冊子「文集・タイトル『さくら』」を作成した。

▶今後の展望

- ・ オンライン授業が教室と遠方の学習者（海外・国内在住であるが通学が困難である等）が対象となりうることを実感した。
- ・ 一定レベルの日本語を修得した後は、日本語以外の科目（例：特定技能測定試験の科目「外食」「介護」など）にも授業内容を広げることができると思ったため、考案していきたい。
- ・ 当校には日本語学科以外に留学生を受け入れている学科があるため、今回の成果を他の学科とも共有し、活用していく。
- ・ オンライン授業という方法は様々なコンテンツを活用しやすい。全教員がコンテンツを整理し活用できるようにしたい。

取組の概要

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎	◎				◎	◎	○
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
○	◎	○	○	○			

※◎は当事例で特に注目される実践事例（次ページ参照）

取組のポイント

- ・ オンデマンドとオンラインを組み合わせ、いかに4技能のスキルを伸ばすかに留意した。
- ・ 「聞く」は、クラスメートに質問する等のフリートークの時間を設けた。学習者の母国出身のゲストスピーカーを招きオンラインで参加してもらい、「日本（海外）に留学すること・日本（海外）で就労すること」をテーマにディスカッションを実施した。

実施事項

項目	内容								
手法	<table><tr><td>オンライン</td><td>ハイブリッド</td><td>オンデマンド</td><td>ハイフレックス</td></tr><tr><td>◎</td><td></td><td>◎</td><td></td></tr></table> ・ 「オンデマンド授業」（自律学習）と「オンライン授業」（画面越しの対面授業）の組み合わせで実施。 ・ 反転授業、e-ラーニングを実施。	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	◎		◎	
オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス						
◎		◎							
事業全体	・ グループ授業4クラス（A・B・C・D）。 ・ フリートークで質問やディスカッションなどを実施。 ・ 無料サイトコンテンツ（日本文化、日本事情、漢字学習のため無料の漢字筆順など）を活用。								

「Cクラス」の例

項目	内容
人数	9名（スリランカ） 
利用教材	・ eTRY! 日本語 JLPT N5 ver2 ・ eTRY! 日本語 START ver1.3
教員	非常勤講師1名（経験年数10年）
当クラスの学習時間	1日（1コマ45分×4時限）×全20回 合計60時間

取組の概要（聞く）

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
◎	◎				◎	◎	
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
		◎					

取組のポイント

- ・ 学習者の母国出身のゲストスピーカーを招き、「日本（海外）に留学すること・日本（海外）で就労すること」をテーマにディスカッションを実施した。（東京・スリランカ・アメリカをZoomでつないだ）
- ・ オンラインの利点を生かし様々な人に協力してもらうことで日本語を聞く機会を増やした。

項目	内容
 目標	・ 身近が話題で他の学習者・教員の話聞き、内容を理解できる。
 教育内容	・ オンデマンド授業の音声を繰り返し聞く。 ・ ライブ授業では教員や他の学習者の発話を傾聴する。
 学習方法	・ クラスメートに質問する等、フリートークの時間を設けた。 ・ 学習者の母国出身のゲストスピーカー 1名に参加してもらい、テーマに沿ってディスカッションを実施。

項目	内容
 評価方法	・ 会話テストを、クラス分け時と受講修了時に実施。 ・ オンライン面接を実施し、教員が評価。
 学習効果	・ 開講時はA1・A2レベルであったが、聞く力が格段に向上した。 ・ 身近な話題について、明瞭かつ自然なスピードで理解できるようになった。

▶ 有識者からのコメント



- ・ 教室で実施する授業ではゲストスピーカーを呼ぶのがなかなか難しいが、オンラインだと教室に来てもらう必要がないので、様々な人に協力してもらいやすい。その点を活かしてよい。

HAYAMA International Language School

オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス
◎		○	

A1	A2	B1	B2	C
○	○	○	◎	

話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く
◎	○	○	○	

進学	就職	一般
◎	○	
日本事情 日本理解	その他	
○		

外形情報

- 2020年創設
- 奈良県奈良市都祁吐山町3939
- 事業期間 2022年8月1日～2022年1月31日

▶ 実証事業のきっかけ、抱えていた課題 (before)

- ・ 入国前、学習者が日本人と接触する機会があまりに少なく、うまく日本の生活に馴染めない。
- ・ 日本に来る前に学習者の状況がわからず、学習者を迎える準備がなかなかうまくできなかった。
- ・ 学習者の介護についての理解が浅く、入国後、スムーズに介護職に就くことができなかった。

▶ 実証事業を通じて得た成果 (after)

- ・ 本事業を通して、日本人とのつながりができ、入国に伴う不安を低減させることができた。
- ・ 学習者の情報が入国前から把握でき、学習者の状況に合わせた受け入れ準備ができた。
- ・ 介護についてのある程度の知識とイメージを持って、入国することができ、介護職に対するイメージギャップを減らし、トラブルを最小限にすることができた。

▶ 具体的な取組・工夫 (action)

- ・ 自作の会話教材を用いて、日本の文化や習慣に触れながら、日本人と会話練習をした。
- ・ 動画教材を用いて、文法の実践的な使い方について学習した。
- ・ 姉妹校である介護専門学校の先生を講師に招いて、介護の基礎知識や働き方などについての授業を展開した。
- ・ できるだけ少人数を心掛け、学習者一人一人とのつながりを持てるようにクラス分けをした。
- ・ 学習者に我が校のイメージがつかみやすいように、学校のPR動画、学校パンフレットを作成した。

▶ 今後の展望

- ・ 作成したパンフレット、学校のPR動画を用いて、学習者に透明性の高い情報を発信し、広報活動をする。
- ・ 今回、得られた知見を活かして、今後の入国前学習に注力していきたい。

取組の概要

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
○	○	○	◎		◎	○	
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
◎	○	○	○		○		

※◎は当事例で特に注目される実践事例（次ページ参照）

取組のポイント

- ・ オンデマンド教材を利用し、留学する前の事前学習としてICTを活用した授業を実施。
- ・ B2 相当の日本語レベルのクラスでは、オンラインの利点を生かして授業動画を録画し、開始時と終了時と比較し評価をおこなった。
- ・ 介護の仕事をするうえで覚えておきたい場面の日本語トレーニングや、オリジナル教材を作成した。
- ・ 授業以外では、学習者向けの学校のPR動画、パンフレットの制作などを行った。

実施事項

項目	内容								
手法	<table><tr><th>オンライン</th><th>ハイブリッド</th><th>オンデマンド</th><th>ハイフレックス</th></tr><tr><td>◎</td><td></td><td>○</td><td></td></tr></table> ・ Zoomを利用したオンライン授業。学習者は自宅からPC・スマートフォンなどを利用して受講。 ・ オンライン・オンデマンド教材の「おしゃべりのたね」は、特に「話す（やり取り）・聞く・読む」に活用。	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	◎		○	
オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス						
◎		○							
事業全体	・ 少人数のグループ授業を10クラス実施。 ・ 日本に留学する前の事前学習や、介護場で覚えておきたい日本語を習得させる。								

「コース2」の例

項目	内容
人数	3名（タイ） 
利用教材	・ 「eTRY! N3」 ・ 「日本語おしゃべりのたね 第2版」
教員	3名 （授業担当教員1名・授業補助1名、コース運営相談1名）
当クラスの学習時間	1日60分 × 全8回 合計8時間

取組の概要（話す（やり取り））

A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般
			◎		◎		
話す (やり取り)	話す (発表)	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	
◎							

取組のポイント

- ・ B2相当のレベルの学習者に、会話中心のオンライン授業を実施。日常的な会話や自身の考えを発話させた。
- ・ オンラインは録画がしやすいという利点を活用し、授業の最初と最後の動画を比較し評価を行い、自身の能力向上を実感しやすくした。

項目	内容
 目標	・ 発音指導、日常のあいさつ、日常場面での会話。 ・ 自分のことや身近なことについて話せる。
 教育内容	・ eTRY! N3の学習事項をベースに、日常的なトピック、授業内容に応じたトピックについて簡単な会話をし、自身の考えを述べる。 ・ 教材「日本語おしゃべりのたね第2版」を毎週1課ごとを進める。
 学習方法	・ 授業前のスモールトークで時事のトピックについて会話をし、オンデマンド教材で学習項目を使用しながら作文をさせ、それを発話させる。 ・ 教材「日本語おしゃべりのたね第2版」PPTを使って、絵で示しながら各テーマについて会話する。 ・ 毎回使うべき文法項目/ゴールを提示し、それを使ってテーマについて自分のことを自分の言葉で話し、発表する。

項目	内容
 評価方法	・ 最初と最後の授業動画を比較することでの評価の実施
 学習効果	・ 基本的な意思疎通だけでなく、日常的な会話を軽い冗談も交えながら行うことができるようになった。 ・ 回を重ねるごとに、授業態度が積極的になり、発話や質問の数も増えた。 ・ 少ない授業数にもかかわらず、学習した文型を使うことができ、話し方も流暢になった。

▶ 有識者からのコメント



- ・ オンライン授業では録画がしやすいという点を、評価で活用できているのがよい。

索引

①言語活動からさがす

		レベル					手法				対象			学校別	掲載ページ
		A1	A2	B1	B2	C	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	進学	就職	一般		
言語活動	話す（やり取り）	○						○			○			Grandeur Global Academy 沼津校	33
		○							○		○			I.C.NAGOYA	16
		○					○				○			新富国際語学院	22
		○					○						○	南大阪国際語学学院	42
		○								○			○	神村学園専修学校	28
				○	○		○					○		国際語学学院	46
				○				○			○	○		さくら東京日本語学校	49
					○		○				○			東京語学学校	38
					○		○				○			HAYAMA International Language School	58
	話す（発表）	○						○			○			Grandeur Global Academy 沼津校	34
		○					○					○		I.C.NAGOYA	17
		○					○						○	南大阪国際語学学院	43
	聞く	○							○		○			Grandeur Global Academy 沼津校	35
		○							○				○	東京さくら学院	52
		○	○				○		○		○	○		東京福祉保育専門学校	55
				○	○	○		○			○		○	神村学園専修学校	29
	読む	○							○		○			I.C.NAGOYA	18
		○					○				○			新富国際語学院	23
			○				○					○		新富国際語学院	24
				○	○	○		○			○		○	神村学園専修学校	30
	書く	○							○		○			I.C.NAGOYA	19
		○					○				○			東京語学学校	39
			○				○					○		新富国際語学院	25

②レベルからさがす

		言語活動						手法				対象			学校別	掲載ページ	
		話す （やり取り）	話す （発表）	聞く	読む	書く	日本事情・日本理解	その他	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	進学	就職			一般
レベル	A1	○								○			○			Grandeur Global Academy 沼津校	33
		○									○		○			I.C.NAGOYA	16
		○							○				○			新富国際語学院	22
		○							○						○	南大阪国際語学学院	42
		○										○			○	神村学園専修学校	28
			○						○						○	I.C.NAGOYA	17
			○							○			○			Grandeur Global Academy 沼津校	34
			○						○						○	南大阪国際語学学院	43
				○							○		○			Grandeur Global Academy 沼津校	35
				○							○				○	東京さくら学院	52
					○						○		○			I.C.NAGOYA	18
					○				○				○			新富国際語学院	23
						○					○		○			I.C.NAGOYA	19
						○			○				○			東京語学学校	39
	A2			○					○		○		○	○		東京福祉保育専門学校	55
					○				○					○		新富国際語学院	24
						○			○					○		新富国際語学院	25
	B1	○								○			○	○		さくら東京日本語学校	49
	B2	○							○				○			東京語学学校	38
		○							○					○		国際語学学院	46
		○							○				○			HAYAMA International Language School	58
	C			○						○			○		○	神村学園専修学校	29
					○					○			○		○	神村学園専修学校	30

③対象からさがす

		言語活動							レベル					手法				学校別	掲載ページ
		話す（やり取り）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情・日本理解	その他	A1	A2	B1	B2	C	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス		
対象	進学	○							○					○				新富国際語学院	22
		○										○		○				東京語学学校	38
		○										○		○				HAYAMA International Language School	58
		○							○						○			Grandeur Global Academy 沼津校	33
		○							○							○		I.C.NAGOYA	16
			○						○						○			Grandeur Global Academy 沼津校	34
				○					○							○		Grandeur Global Academy 沼津校	35
					○				○					○				新富国際語学院	23
					○				○							○		I.C.NAGOYA	18
						○			○					○				東京語学学校	39
						○			○							○		I.C.NAGOYA	19
	就職	○									○				○			さくら東京日本語学校	49
		○									○	○		○				国際語学学院	46
			○						○					○				I.C.NAGOYA	17
				○					○	○				○		○		東京福祉保育専門学校	55
					○					○				○				新富国際語学院	24
						○				○				○				新富国際語学院	25
	一般	○							○					○				南大阪国際語学学院	42
		○							○								○	神村学園専修学校	28
			○						○					○				南大阪国際語学学院	43
				○					○							○		東京さくら学院	52
				○							○	○	○	○				神村学園専修学校	29
					○						○	○	○	○				神村学園専修学校	30

④手法からさがす

		言語活動							レベル					対象			学校別	掲載ページ
		話す（やり取り）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情・日本理解	その他	A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般		
手法	オンライン	○							○					○			新富国際語学院	22
		○							○							○	南大阪国際語学学院	42
		○									○	○			○		国際語学学院	46
		○										○		○			東京語学学校	38
		○										○		○			HAYAMA International Language School	58
			○						○						○		I.C.NAGOYA	17
			○						○							○	南大阪国際語学学院	43
				○					○	○				○	○		東京福祉保育専門学校	55
					○				○					○			新富国際語学院	23
					○					○					○		新富国際語学院	24
						○			○					○			東京語学学校	39
						○				○					○		新富国際語学院	25
	ハイブリッド	○							○					○			Grandeur Global Academy 沼津校	33
		○									○			○	○		さくら東京日本語学校	49
			○						○					○			Grandeur Global Academy 沼津校	34
				○							○	○	○	○		○	神村学園専修学校	29
					○						○	○	○	○		○	神村学園専修学校	30
	オンデマンド	○							○					○			I.C.NAGOYA	16
				○					○					○			Grandeur Global Academy 沼津校	35
				○					○							○	東京さくら学院	52
					○				○					○			I.C.NAGOYA	18
						○			○					○			I.C.NAGOYA	19
	ハイフレックス	○							○							○	神村学園専修学校	28

(文化庁委託事業)
ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業
事業報告書「グッドプラクティス集」

令和5年2月

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社